

平成 25 年度  
(2013)  
事業報告書

社会福祉法人 山輝会  
ウェルフェア・グランデ明石  
プライム江井ヶ島

平成 25 年度 (2013) 社会福祉法人山輝会事業報告書

ウェルフェア・グランデ明石

- ・ 特別養護老人ホーム部門 (本館) P 1 ~
- ・ 特別養護老人ホーム部門 (アネックス) P 1 2 ~
- ・ 通所介護うらら部門 P 1 6 ~
- ・ 通所介護きらら部門 P 1 8 ~
- ・ 訪問介護部門 P 2 0
- ・ きぬがわ居宅介護支援事業部門 P 2 1
- ・ グループホームプリランテ明石部門 P 2 2 ~
- ・ 総務部事業報告 P 2 4

プライム江井ヶ島

- ・ 特別養護老人ホーム部門 P 2 5 ~
- ・ 短期入所生活介護部門 P 2 7 ~
- ・ 通所介護部門 P 2 9 ~
- ・ データ集 P 3 1 ~

# 平成25年度事業報告書

報告日	平成26年5月10日
部門名	生活課
責任者	龍造寺 千恵子

収入稼働率	項目		累計	
	稼働率	収入	稼働率	収入
	96.0%	262,983千円	96.0%	262,983千円
	96.0%	272,635千円	0.0%	9,652千円
	100.0%	103.7%		

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	安定した収入を確保する	<p>特養 稼働率 98% (資料 I)</p> <p>SS 稼働率 90% 新規利用者のリピート率 80% (資料 I)</p>	<p>【総括】 全体稼働率 96.0% 年間稼働率 97.6% 新規入居者 13名 空床数 463日 (前年比 +156日) 延べ入院者数 22名 (前年比 +7名) 退居者数 13名 (死亡退居 8名 長期入院5名) 入院による空床 373日 (前年比 +131日) 退居による空床 83日 (前年比 +21日) 外泊による空床 7日 (前年比 +4日) 平均入院日数 17日 (前年比 +0.9日) 入退居時の平均空床 6.4日 (前年比 +1.2日)</p> <p>・下半期に入院者が増加し、年明けからは立て続けに退居者が出た。入院日数の増加が稼働率にそのまま反映された結果となり、退居者の数に面接が追いつかず空床日数も増えた。</p> <p>【短期】 年間稼働率 91.5% 新規利用者 64名 リピート率 71.8% (前年比 + 8.8%)</p> <p>・6月～9月にかけて避暑目的での利用案内を行った。記録的な猛暑で熱中症で入院される方が多い中、独居の方を中心に案内を行いシヨートを利用することで無事に乗り切ることができたとご家族様からも好評を得た。入院バンドも活用することで、7月は稼働率100%を達成することが出来た。</p> <p>・10月以降は、体調不良、骨折による入院でキャンセルが相次いだ。12月には1週間100床近いキャンセルが発生し稼働率に大きな影響を与えた。</p> <p>・今年度からホームページでの空床、行事案内を行い、ケアマネ、ご家族からの問い合わせを受けることができた。</p> <p>また、イベント案内を個別に行い楽しんで頂くことで次回イベント開催時の利用に繋げることができた。</p> <p>・和室環境の整備については、ニーズが無いため実施を見送った。</p>
サービスの強化	お年寄りの思いに応える	<p>「日常生活継続支援加算」の算定を維持する</p> <p>お年寄りスタッフが共に喜び、達成感 を味わえる</p>	<p>・年間通じて加算の算定を維持した。 介護福祉士国家資格は3名が受験して2名が合格することができた。</p> <p>・利用者担当制度は前年度に引き続き、グループカンファレンス等では些細な気付きを発信できる等、一定の成果はあったものの、責任の所在が不明確であり、情報共有にも課題が残った。</p> <p>・記録の書き方はケア記録に特化し、全体研修、個別研修と重点的に取組んだ。お年寄りの様子やスタッフの気付き、思い等、ニーズを把握してケアに繋がる記録を残せるように努めた。</p> <p>・ラジオ体操、イキイキ体操などを毎日の日課として取組んだ。上半期では定着した感もあったが下半期に入り人員不足等、職員側の都合で実施頻度が少なくなってしまう事は反省であり、次年度の課題とする。</p>

視点	重点取組課題	目標値	総括
	家族参加の行事を開催する 2回/年(7月、12月)	家族参加の行事を開催する 2回/年(7月、12月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事には多数の家族様に参加頂くことが出来た。日頃の様子を情報発信することができ、ご家族同士の交流の場としても有意義なものとなった。</li> <li>【家族参加人数】 7月 日帰り旅行 計:19名 大運動会 計:30名 9月 敬老会 計:16名 12月 忘年会 計:11名 10月 一泊旅行 計:7名</li> </ul>
	自分達の取組みを情報発信する	家族参加のカンファレンスを開催する 各入居者1回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご家族様に参加して頂くことで、意見や意向を直接伺うことのできる貴重な場となった。面会頻度の多い利用者が中心にはなかったが、施設での生活状況を知って頂く良い機会となった。リーダーが動かなければ行動しないという体質が大きく影響して取り組みの開始が遅く、結果として実施できた方は少数となった。また、ご家族様の都合も十分に考慮することができていなかった。</li> <li>【家族参加カンファレンス開催実績】 3階 : 6名 4階 : 3名</li> </ul>
		壁新聞を作成する 4回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>各フロア、四半期毎に壁新聞を作成、掲示した。写真を掲示するだけでなく、記事を増やしたりと工夫する事で、利用者、ご家族様をはじめ、たくさんの方に読んで頂き好評を得た。掲示後は、ご希望されるご家族様に写真を差し上げた。</li> </ul>
		プログラムの更新 1回以上/月	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事企画の内容を中心に、19回/年更新した。</li> </ul>
サービスの強化		口から美味しく食べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の味や食べやすさなど、利用者目線の意見を毎月の給食委員会で情報発信した。</li> <li>歯科往診時に義歯調整や口腔ケア、舌苔の除去を依頼した。</li> </ul>
	こたわりを持って介護する	失禁が減る	<ul style="list-style-type: none"> <li>排泄委員会を中心に、個別の排泄改善計画を立案、実施につなげて便秘解消、トイレでの排便に取組んだ。対象者を絞ることで集中的に取組み、改善に繋げる事はできたが継続することの難しさも感じた。まだまだ便失禁が完全に無くなった訳ではないが、取組みの成果に確かな手応えを感じた。</li> <li>【トイレで排便できていない方】 3階 : 13名/29名(44.8%) 3階 : 24名/28名(85.7%) 4階 : 15名/23名(65.2%) 4階 : 22名/24名(91.2%) 延べ人数 : 55名/65名(84.6%) (平成26年4月1日) (平成26年3月31日)</li> </ul>
		安全な移乗介助技術を習得する	<ul style="list-style-type: none"> <li>移乗技術の勉強会等は開催しなかったが、新人職員へはお年寄りにも協力していただき個別に指導を行った。</li> <li>年度末に入浴介助時に使用する介助者の椅子を作成し、中腰姿勢で介助することによる腰への負担軽減を図った。</li> </ul>
	基本のマナーを身につける	毎月の目標を決める	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の月間目標を設定して意識向上に取組んだが、評価する仕組みがないため、常に意識して継続した取組みに繋がらなかったことが反省である。職員が互いに注意し合える環境も大切であり、接遇マナーは次年度の重点取組み課題とした。</li> </ul>
	お年寄りの健康管理を行う	誤嚥性肺炎、感染症による入院者ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>結核検診、予防接種は当初の予定通りに実施することが出来た。</li> <li>幸い感染症の発生には至らなかったが、誤嚥性肺炎での入院者は3名出てしまった。完全に予防することは難しいが、口腔ケア、食事姿勢の見直しに力を入れ、次年度は正しい知識に基づいたケアを実践する。</li> <li>年度途中にオゾン消毒装置が増設された事で、各居室の消毒頻度を増やすことが出来た。</li> </ul>
業務の改善	消耗品のコスト削減	使用量 前年比5%減	<ul style="list-style-type: none"> <li>消耗品は毎月の使用量を倉庫内に掲示し、倉庫担当者やフロア職員の輪番制とすることで職員のコスト意識向上に努めた。</li> <li>感染症の発症が無かったこともあり、目標値をクリアすることができた。</li> <li>【主な消耗品の使用量(前年比)】 プラスチックグロブ(S) 63.2% ゴミ袋(45ℓ) 83.5% プラスチックグロブ(M) 80.5% ゴミ袋(20ℓ) 79.6% ペーパータオル 82.7% 液体洗剤ビック 69.1% トイレットペーパー 89.9% 液体ワイドハイター 73.2% トロミクリア 63.2%</li> </ul>

視点	重点取組課題	目標値	総括
	節電、節水	光熱水費 前年比減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デマンドアラームの鳴る時間を把握し、時間帯を限局して集中的に電力使用量の削減に取組み一定の成果があった。</li> <li>・光熱水費(使用量)は前年比のグラフを各フロアに掲示したが、漠然とした数値であり具体的な取組みとの関係性も見えにくく、コスト削減の効果は薄かった。</li> <li>設備上の不具合もあり実測値は捉えにくかったが節電意識は定着している。</li> </ul>
	オムツ代金の削減	オムツ代金 190,000円/月 特養:145,000円 短期:45,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オムツ代金は目標値に届かなかったが前年比で削減することができた。稼働率や介護度等の関係もあり一律で比較はできないが、排泄改善計画に取組んだ成果であると認識している。</li> <li>・コスト削減の取組みとして数社からリハビリパンツの見積もりをとったが検討には至らなかった。</li> </ul> <p>【オムツ代金】 年間合計：2,330,857円（特養：1,759,713円、短期：571,144円） 月平均：194,238円（特養：146,643円、短期：47,595円）</p>
業務の改善	居残り解消	勤務終了後40分以内に退勤する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録時間の確保に取組み、業務分担を見直すことで勤務時間内で実施できるように調整を行った。また、行事企画や各種会議の議事録作成なども勤務時間に組込んだが、全てを補うことは難しく必要に応じて超勤申請の必要性も感じた。</li> <li>・各種会議、研修は開催時間を厳守することで居残りの解消に繋がった。</li> <li>・慢性的に居残りが多い職員には状況確認、面談を行ったが、個人の能力差に起因する事も多く、解消には至っていない。</li> </ul>
	感染症の発生を予防する	清潔な住環境となる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の家事援助マニュアルを見直したが、修正案をまとめるに至らず次年度への持ち越しとなった。</li> <li>・間接援助業務は担当するスタッフに偏りがあり、常勤職員は任せきりにしてしまう事が多かった。また、フロアによってスタッフの意識に差があるため、役割分担を見直し誰もが確実に実施でき、効率化を図る必要性を感じた。</li> </ul>
	感染症の発生を予防する	感 染 症 対 応 方 法 を 身 に つ け る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対応研修は実技を中心に言い、排泄物や吐しゃ物処理の方法について学ぶ機会を設けた。</li> <li>・流行期に感染症と疑わしい症状を発症した場合には最悪のケースを想定して、看護職員の指示で早期の感染症対応に取組み蔓延を予防した。</li> </ul>
人材、組織力の強化	自分一人ですでできない事を皆で協力して実現する	職員満足度の向上  リーダー面談 2回/年  会議で自分の意見を自由に述べられる  小グループ研修 4回/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当制の影響もあり皆で何かを相談する機会が増えた。しかし、職員一人ひとりの主体性が発揮されず、相談しなければ決められない、動けないと言った姿勢が顕わになり指示待ちの姿勢が改善されないうまま持ち越ししている。</li> <li>・送りを朝夕に行い、各種議事録を掲示することで情報共有に努めた。</li> <li>・上半期、下半期に各1回ずつリーダー面談を実施した。</li> <li>・小グループ研修やグループカンファレンス等、小規模な単位で開催することで遠慮なく意見の出せる機会を多く設けた。</li> <li>・少人数であれば積極的に発言できる職員も増えたが、規模の大きな会議などでは右に徹すの姿勢も見られ、発言者は限定的であった。</li> <li>・小グループ研修、自立支援介護の勉強会を18回/年実施した。個人や委員会等が主体となり、自らが学びたい事をテーマにして積極的な開催に繋げる事ができた。職員からも好評であり、次年度も継続して取り組む。</li> <li>・会議開催にあたっては事前に議題を周知する、連絡事項は書面で配布する、ホワイトボードを活用して視覚的に理解を促す、時間設定を明確にする等の工夫を行い、短時間で効果的な会議開催に努めた。</li> <li>・有意義な会議ばかりでは無かったが、繰り返し開催する事で目標設定の必要性、結論までの導き方を少しずつ学ぶことができた。</li> </ul>
職員教育、育成	新規採用職員を大切にする	中退退職者ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度途中の退職者は常勤職員3名、非常勤職員5名であった。</li> <li>・退職理由は賞金、勤務形態、家庭の事情など様々であったが、インテーク部分での説明が理解されていないケースもあり、より丁寧な説明が必要に感じた。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部研修は体験型として、自ら経験する事で学びを深めた。また、全体研修は同じ内容をくり返し開催する事で、より多くの職員が参加することができた。また、研修報告書の書式を見直し、参加者には目的意識を持った参加を促した。</li> <li>・回数を重ねることで主催者側の学びはあったが、研修効果としては結果に結びついたとは言えず例年と同様に反省が残った。</li> <li>・法人研修は参加した職員から非常勤職員への伝達講習を実施した。全職員が同じ内容の研修を受講する事で、共通認識を深めることができた。</li> </ul>

# 平成25年度 生活課 事業報告(資料 I)

## No. 1 ベッド稼働率、コスト管理

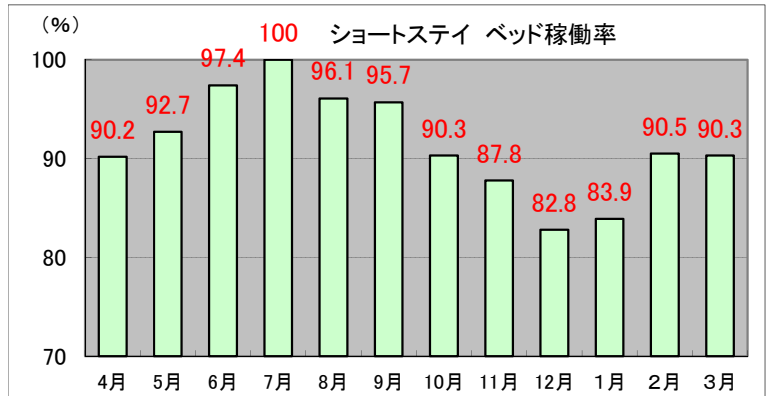
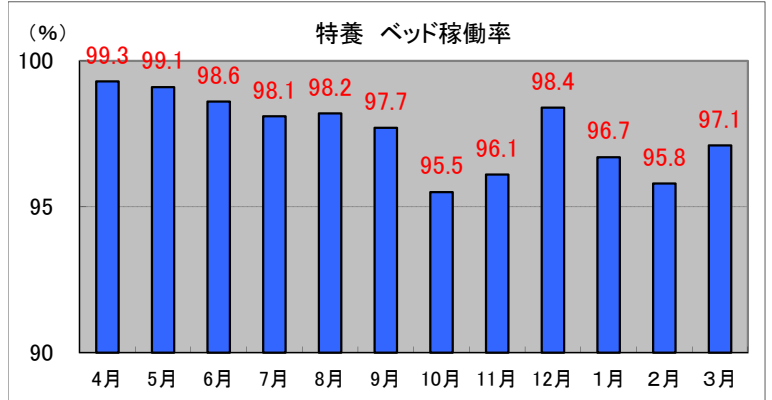
### 【平成25年度 特養(本館)稼働状況】

月	本来日数	実日数	稼働率
4	1560	1549	99.3%
5	1612	1597	99.1%
6	1560	1538	98.6%
7	1612	1582	98.1%
8	1612	1583	98.2%
9	1560	1524	97.7%
10	1612	1539	95.5%
11	1560	1499	96.1%
12	1612	1586	98.4%
1	1612	1559	96.7%
2	1456	1395	95.8%
3	1612	1566	97.1%
合計	18980	18517	97.6%

入居	退居	退居理由	入院日数	外泊日数	空床日数	空き合計
0	0		11	0	0	11
1	1	長期入院	11	0	4	15
0	0		22	0	0	22
0	0		30	0	0	30
1	1	死亡	15	1	13	29
0	0		36	0	0	36
1	1	長期入院	68	0	5	73
2	2	長期入院、死亡	52	0	9	61
1	1	長期入院	24	0	2	26
2	4	死亡	26	6	21	53
3	2	長期入院、死亡	42	0	19	61
2	1	死亡	36	0	10	46
13	13		373	7	83	463

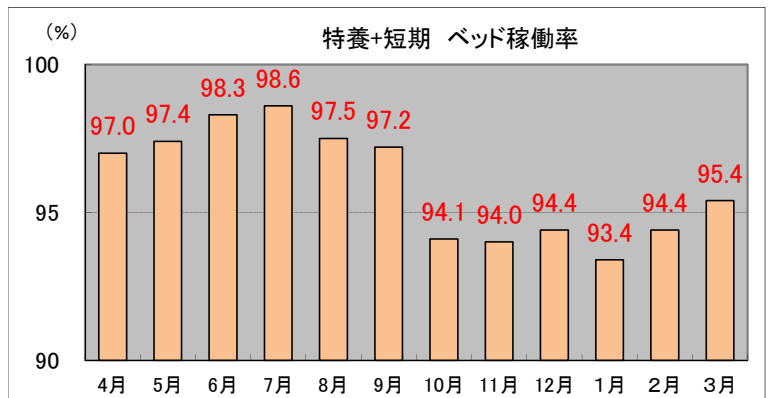
### 【平成25年度 短期入所生活介護 ベッド稼働率】

月	本来日数	実日数	稼働率(%)
4	540	487	90.2%
5	558	517	92.7%
6	540	526	97.4%
7	558	558	100.0%
8	558	536	96.1%
9	540	517	95.7%
10	558	504	90.3%
11	540	474	87.8%
12	558	462	82.8%
1	558	468	83.9%
2	504	456	90.5%
3	558	504	90.3%
合計	6570	6009	91.5%



### 【平成25年度 特養+短期 ベッド稼働率】

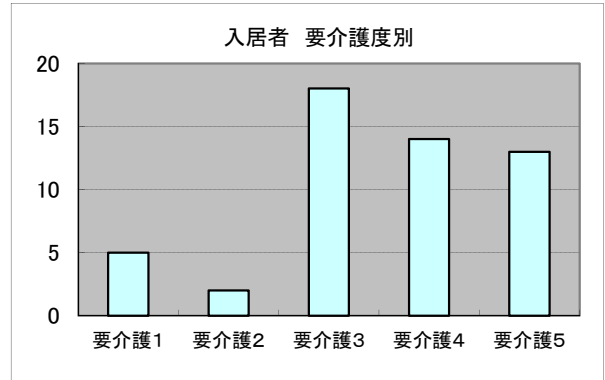
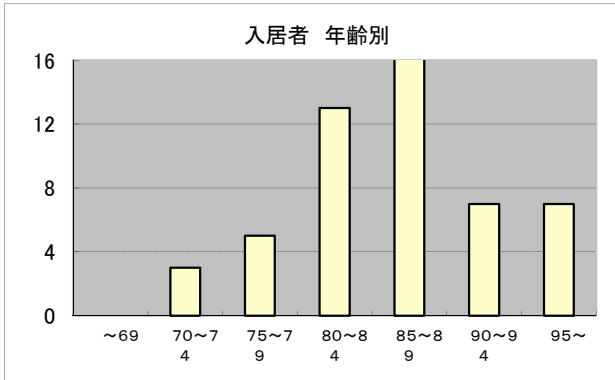
月	本来日数	実日数	稼働率(%)
4	2100	2036	97.0%
5	2170	2114	97.4%
6	2100	2064	98.3%
7	2170	2140	98.6%
8	2170	2119	97.5%
9	2100	2041	97.2%
10	2170	2043	94.1%
11	2100	1973	94.0%
12	2170	2048	94.4%
1	2170	2027	93.4%
2	1960	1851	94.4%
3	2170	2070	95.4%
合計	25550	24526	96.0%



【平成26年3月31日現在 本館入居者 年齢・要介護度一覧】

年齢(歳)	人数(人)	%
～69	0	0.0%
70～74	3	5.8%
75～79	5	9.6%
80～84	13	25.0%
85～89	17	32.7%
90～94	7	13.5%
95～	7	13.5%
合計	52	100.0%
平均年齢 86.3歳(男性 78.0歳 女性 88.1歳)		

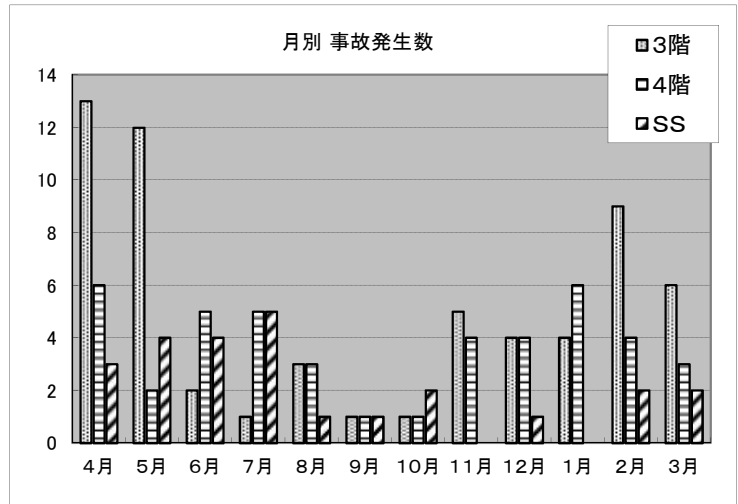
介護度	人数(人)	%
要介護1	5	9.6%
要介護2	2	3.8%
要介護3	18	34.6%
要介護4	14	26.9%
要介護5	13	25.0%
合計	52	100.0%
平均介護度		3.54



No. 2 事故発生数

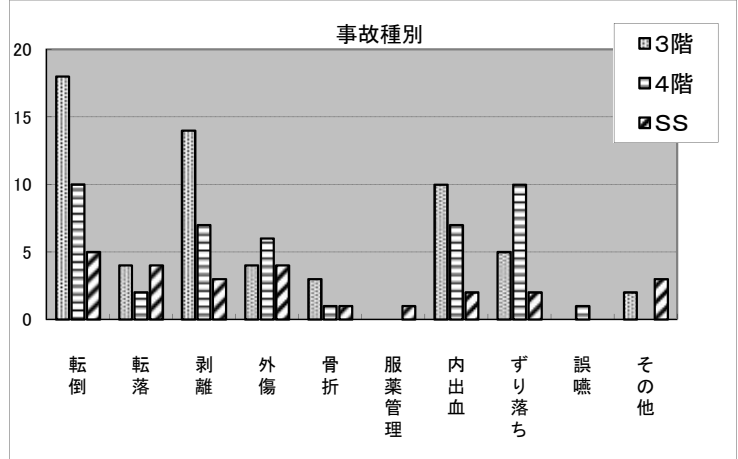
《月別 事故発生数》

月	3階(件)	4階(件)	SS(件)	計(件)
4月	13	6	3	22
5月	12	2	4	18
6月	2	5	4	11
7月	1	5	5	11
8月	3	3	1	7
9月	1	1	1	3
10月	1	1	2	4
11月	5	4	0	9
12月	4	4	1	9
1月	4	6	0	10
2月	9	4	2	15
3月	6	3	2	11
計	61	44	25	130



《事故報告 内訳》

種別	3階	4階	SS	計
転倒	18	10	5	33
転落	4	2	4	10
剥離	14	7	3	24
外傷	4	6	4	14
骨折	3	1	1	5
服薬管理、与薬ミス	1	0	1	2
内出血	10	7	2	19
ずり落ち	5	10	2	17
誤嚥	0	1	0	1
その他(離脱、紛失等)	2	0	3	5
合計	61	44	25	130



保険者への事故報告数	特養: 4件 SS: 1件
------------	---------------

### No. 3 行事・企画実績

#### 《全体企画》

実施年月日	企画・行事名	入居者・SS	家族	ボランティア
平成25年 6月 14日(金)	ミニコンサート	48名	0	0
平成25年 9月 15～16日	敬老会	延132名	延19名	0
平成25年 10月19～20日	一泊旅行(姫路城大天守修理見学)	11名	7名	0
平成25年 12月 26日(木)	忘年会	63名	11名	0
平成26年 1月 1～11日	正月行事(正月祝い、初詣、鏡開き)	延150名	0	0
平成26年 2月 3日(月)	節分行事	63名	0	0
平成26年 3月 21日(金)	風船バレーボール大会	56名	0	0

#### 《フロア、SS企画》

実施年月日	企画・行事名	入居者・SS	家族	ボランティア
平成25年 5月 30日(木)	4階フロア企画「どら焼き作り」	34名	0	0
平成25年 7月 14日(日)	4階フロア企画「日帰り旅行 in須磨海浜水族園」	12名	14名	0
平成25年 8月 29日(木)	4階フロア企画「わらびもち作り」	36名	0	0
平成25年 11月 1日(金)	4階フロア企画「ねったぼ作り」	36名	0	0
平成25年 11月 17日(日)	4階フロア企画「秋の大運動会」	30名	24名	0
平成26年 3月 15日(土)	4階フロア企画「クレープ作り」	37名	0	0
平成25年 5月 22日(水)	3階フロア企画「おはぎ作り」	30名	0	0
平成25年 7月 21日(日)	3階フロア企画「日帰り旅行 in須磨海浜水族園」	8名	5名	0
平成25年 8月 28日(水)	3階フロア企画「どら焼き作り」	31名	0	0
平成25年 10月 25日(金)	3階フロア企画「芋きんつば作り」	29名	0	0
平成25年 11月 24日(日)	3階フロア企画「秋の大運動会」	26名	6名	0
平成26年 2月 20日(木)	3階フロア企画「鈴カステラ作り」	32名	0	0
平成25年6月26、30、7月3日	SS外出企画「住吉神社」	6名	0	0
平成25年 7月 21日(日)	SS外出企画「おしゃたか舟」	3名	0	0
平成25年 10月 23日(水)	SS外出企画「プラネタリウム鑑賞」	2名	0	0

### No. 4 研修実績

※ 内部研修報告書(資料Ⅱ)は別紙 添付

#### 【施設外研修 参加実績】

月 日	研修名・主催者	参加人数
平成25年 5月 29日(水)	「老人福祉施設新任職員研修」兵庫県社会福祉協議会	2人
平成25年 6月 12日(水)		2人
平成25年 11月 28日(木)	「拘束なき介護にむけての職員研修会」東播ブロック老人福祉事業協会	2人
平成25年 12月 8日(日)	「リーダーのための接遇マナー実践学習会」関西看護出版	2人
平成25年 9月 10日(火)	「介護記録の書き方研修会」介護サービス向上推進協議会	2人
平成25年 6月 3日(月)	「ご利用者のQOLを考える～私たちが目指すケアとは～」ユニ・チャームメンリッケ	3人
平成25年 4月 14日(日)	「感染症対策と介護のセミナー」(株)ACT JAPAN	1人
平成25年 11月 12日(火)	「生活支援の場でのターミナルケア～最期まで見届ける～」東播ブロック老人福祉事業協会	2人
平成25年 8月 30日(金)	「身体拘束と介護事故」東播ブロック老人福祉事業協会	4人
平成25年 9月 30日(月)	「人を語らずして介護を語るな」東播ブロック老人福祉事業協会	1人
平成26年 1月 17日(金)	「高齢者入所施設等における感染対策研修会」東播磨県民局	1人
平成26年 2月 14日(金)	「老人福祉施設中堅職員研修」兵庫県社会福祉協議会	1人
平成26年 3月 7日(金)	「誤嚥性肺炎防止研修会」東播磨県民局	1人
平成26年 3月 20日(木)	「悪質クレーム、暴言、暴力に対する危機管理と介護従事者の対応」介護サービス事業所連絡会	1人
合 計		25名



## No. 5 会議開催実績

### 【3階フロア会議】

年月日	主な議題
平成25年4月4日(金)	前年度振り返り、居室の整理整頓
平成25年4月22日(月)	排泄ケアの現状把握
平成25年5月6日(月)	前年度の事故分析と対応
平成25年5月31日(金)	食事時間短縮の取り組み
平成25年6月7日(金)	夜勤業務の統一、食事時間短縮
平成25年6月24日(月)	〃
平成25年6月25日(火)	洗濯物の名前間違えについて
平成25年7月6日(土)	ヒヤリハットの活用、洗濯物返却
平成25年8月5日(月)	業務分担、洗濯物返却
平成25年8月26日(木)	内出血事故への対応、業務分担
平成25年10月4日(金)	食事時間短縮の取り組み
平成25年10月18日(金)	食事時間短縮の取り組み
平成25年10月31日(木)	ショートステイ退居後の掃除、忘れ物
平成25年11月19日(木)	提出書類の遅延について
平成26年1月7日(火)	提出書類の遅延、業務分担
平成26年2月17日(月)	業務分担、実行計画の反省
平成26年3月30日(日)	苦情対応

### 【リーダー会議】

年月日	主な議題
平成25年4月17日(水)	前年度事故状況の確認と対応
平成25年5月2日(木)	事業報告の確認、食事時間短縮
平成25年5月13日(月)	業務分担、事故・ヒヤリハット
平成25年6月1日(土)	内部研修計画、事故・ヒヤリハット
平成25年6月18日(火)	業務分担、食事時間短縮
平成25年7月2日(火)	業務分担、業務日誌の記入方法
平成25年7月17日(水)	事故報告、事業計画の進捗状況
平成25年8月1日(木)	業務分担、ヒヤリハットの活用
平成25年8月21日(水)	内部研修計画、報連相
平成25年9月26日(木)	内部研修、引継ぎ簿の書式
平成25年10月24日(木)	居残り解消、上半期の振り返り
平成25年11月13日(水)	居残り解消、提出書類の遅延
平成25年12月19日(木)	事業計画の進捗状況確認
平成26年1月14日(火)	事故の判断、次年度事業計画
平成26年2月6日(木)	次年度事業計画の立案
平成26年2月8日(土)	次年度事業計画の立案
平成26年3月12日(水)	次年度事業計画

### 【4階フロア会議】

年月日	主な議題
平成25年4月11日(金)	グループ担当の割り振り
平成25年4月15日(月)	排泄ケアの現状把握
平成25年5月17日(金)	ヒヤリハットの活用、余暇活動の取組み
平成25年6月7日(金)	苦情対応について
平成25年6月27日(金)	ヒヤリハットの活用、食事時間短縮
平成25年7月16日(火)	業務分担表のモニタリング
平成25年8月13日(火)	居残り改善、グループカンファの在り方
平成25年9月5日(木)	内出血事故への対応
平成25年10月8日(火)	食事時間短縮の取組み
平成25年11月14日(金)	ショートステイ忘れ物対応
平成25年12月11日(水)	ショートステイ忘れ物対応、家事マニュアル評価
平成26年1月20日(月)	速報ルートの確認、事業計画の実行方法
平成26年2月15日(土)	食事時間短縮の取組み

### 【医務会議】

年月日	主な議題
平成26年6月5日(水)	嚙下体操の実施に向けて

### 【サービス担当者会議】

年月日	実施回数
随時開催	81回/年間

### 【カンファレンス】

年月日	実施回数
随時開催(3階)	72回/年間
随時開催(4階)	36回/年間

### 【グループカンファレンス】

年月日	実施回数
随時開催(3階)	24回/年間
随時開催(4階)	15回/年間

## No. 6 音楽療法 活動実績

指導音楽療法士 竹田 典子 先生

実施日	参加人数	実施場所
平成25年4月9日(火)	3+3階	地域交流スペース
平成25年4月23日(火)	10名	地域交流スペース
平成25年5月7日(火)	14名	地域交流スペース
平成25年5月21日(火)	17名	地域交流スペース
平成25年6月4日(火)	18名	地域交流スペース
平成25年6月18日(火)	15名	地域交流スペース
平成25年7月16日(火)	14名	地域交流スペース
平成25年7月30日(火)	11名	地域交流スペース
平成25年8月6日(火)	18名	地域交流スペース
平成25年8月20日(火)	18名	地域交流スペース
平成25年9月3日(火)	15名	地域交流スペース
平成25年9月17日(火)	10名	3階ダイコーナ

実施日	参加人数	実施場所
平成25年10月1日(火)	18名	地域交流スペース
平成25年10月22日(火)	15名	地域交流スペース
平成25年11月5日(火)	16名	地域交流スペース
平成25年11月19日(火)	13名	地域交流スペース
平成25年12月17日(火)	17名	地域交流スペース
平成26年1月7日(火)	14名	地域交流スペース
平成26年1月21日(火)	15名	地域交流スペース
平成26年2月4日(火)	18名	地域交流スペース
平成26年2月18日(火)	18名	地域交流スペース
平成26年3月4日(火)	16名	地域交流スペース
平成26年3月18日(火)	18名	地域交流スペース

## No. 7 実習生・研修生 受け入れ実績

月日	実習名	学校名	人数
平成25年4月16日～17日	兵庫県新任職員研修「福祉実習」	兵庫県職員	1人
平成25年7月29日～8月28日	介護福祉実習 I-②	姫路福祉保育専門学校	3人
平成25年8月1日～9月4日	ソーシャルワーク実習	関西福祉大学	3人
平成25年9月5日～10月9日	ソーシャルワーク実習	関西福祉大学	2人
平成25年9月30日～11月8日	介護福祉実習 II	姫路福祉保育専門学校	3人
平成25年10月1日～12月21日	ソーシャルワーク実習	神戸学院大学	1人
平成26年1月20日～2月7日	介護福祉実習 I-①	姫路福祉保育専門学校	3人
合計			16名

## No. 8 定期ボランティア 活動実績

活動者	活動内容	活動日	活動場所	活動回数
竹田 典子 様	ピアノ演奏	毎月第1.3週火曜日 14:00～15:00	各フロア	20回
竹田 有里 様	音楽療法の補助	毎月第2.4週火曜日 10:30～11:30	地域交流	21回
長渡 節子 様	音楽療法の補助	〃	〃	10回
中山 邦子 様	音楽療法の補助	〃	〃	9回
ボランティアグループ「あじさい」	喫茶手伝い	毎月第1.3週水曜日 13:30～15:30	〃	19回

## No. 9 クラブ活動 活動実績

クラブ名	部員数	活動日	活動場所	活動回数
書道クラブ	4人	2～4回/月 不定期の開催	ダイコーナ	23

※部員数は平成26年3月31日現在

平成25年度 生活課 内部研修実施報告(資料Ⅱ)

全体研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成25年5月25日(土)14:00～16:00	感染症対策研修	手洗い、感染源の処理方法	益中 宣智	7人	飛鷹、三島、佐々木、中西、佃、高曾、益中
平成25年6月4日(火)14:00～16:30	感染症対策研修-II	手洗い、感染源の処理方法	益中 宣智	5人	齋田、田中、高橋、川添、益中
平成25年6月20日(木)14:00～16:30	感染症対策研修-III	手洗い、感染源の処理方法	益中 宣智	6人	多賀、榎本、藤原、秋山、赤田、益中
平成25年5月28日(火)14:00～16:00	緊急対応研修	緊急対応時のロールプレイ	一瀬 明美	6人	齋田、榎本、中西、赤田、中西恵、一瀬
平成25年6月13日(木)14:00～16:00	緊急対応研修-II	緊急対応時のロールプレイ	一瀬 明美	6人	三島、古川、角田、佃、秋山、一瀬
平成25年6月29日(土)14:00～16:00	緊急対応研修-III	緊急対応時のロールプレイ	一瀬 明美	6人	田中、藤原、佐々木、池田、川添、一瀬
平成25年7月9日(火)14:00～15:45	外部研修伝達講習会①	外部研修参加者からの伝達講習	高見 大地、三谷 彰	12人	芝本、高見、中西、赤田、高橋、古川、藤原、多賀、榎本、高曾、龍造寺、三谷
平成25年7月23日(火)14:00～15:45	ケアに活かす記録研修	ケア記録の書くべき内容とポイント	三谷 彰	11人	益中、池田、中西、佃、高橋、古川、齋田、多賀、中井、高曾、三谷
平成25年7月30日(火)14:00～15:45	ケアに活かす記録研修-II	ケア記録の書くべき内容とポイント	三谷 彰	5人	村田、甲斐、齋藤、川添、三谷
平成25年8月2日(金)14:00～15:45	ケアに活かす記録研修-III	ケア記録の書くべき内容とポイント	三谷 彰	5人	藤原、飛鷹、高見、森、三谷
平成25年8月19日(月)14:00～15:45	接遇マナー研修	接遇マナーの習得(言葉遣い、電話など)	三谷 彰	7人	古川、佐々木、飛鷹、中西、佃、村田、三谷
平成25年8月23日(金)14:00～15:45	接遇マナー研修-II	接遇マナーの習得(言葉遣い、電話など)	三谷 彰	7人	赤田、高橋、榎本、藤原、田中、堂路、三谷
平成25年9月2日(金)14:00～15:40	接遇マナー研修-III	接遇マナーの習得(言葉遣い、電話など)	三谷 彰	7人	三島、齋田、中井、高見、益中、龍造寺、三谷
平成25年10月3日(木)14:00～16:10	外部研修伝達講習会②	外部研修参加者からの伝達講習	飛鷹 香織、中西 彬人 芝本 陽子、太田 創	15人	赤田、佃、吉山、中西、芝本、甲斐、太田、三島、榎本、飛鷹、古川、堂路、村田、龍造寺、三谷
平成25年11月8日(金)14:00～15:40	事故、虐待防止研修	事故防止の模擬か77、虐待防止策	飛鷹 香織、中西 彬人	10人	三島、藤原、森、角田、芝本、赤田、吉山、飛鷹、中西、三谷
平成25年11月18日(月)14:00～16:00	事故、虐待防止研修-II	事故防止の模擬か77、虐待防止策	飛鷹 香織、中西 彬人	8人	齋田、榎本、益中、川添、多賀、村田、飛鷹、龍造寺

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参 加 人 数	参 加 者
平成25年11月29日(金)14:00～15:45	事故、虐待防止研修-Ⅲ	事故防止の模擬カリア、虐待防止策	飛鷹 香織、中西 彬人	7人	高見、中井、池田、高橋、佃、飛鷹、三谷
平成25年12月12日(木)14:00～15:45	外部研修伝達講習会③	外部研修参加者からの伝達講習	古川 美月、佃 裕太 芝本 陽子、太田 創	12人	多賀、吉山、川添、三島、高見、佃、古川、太田、芝本、村田 高曾、三谷
平成26年2月28日(金)14:00～15:30	外部研修伝達講習会④	外部研修参加者からの伝達講習	太田 創、高見 大地	11人	太田、高見、榎本、藤原、赤田、中西、多賀、川添、高曾、龍造寺 三谷
平成26年3月31日(月)14:30～15:30	外部研修伝達講習会⑤	外部研修参加者からの伝達講習	芝本 陽子、三谷 彰	11人	太田、飛鷹、多賀、藤原、赤田、高橋、吉山、村田、芝本、龍造寺 三谷

### フロア研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参 加 人 数	参 加 者
平成25年10月29日(火)14:00～15:15	3階フロア研修①	法人研修の伝達講習	齋田 洋平	6人	中西、中井、佐々木、岡村、齋田、龍造寺
平成25年12月16日(月)14:00～15:00	3階フロア研修②	法人研修の伝達講習	齋田 洋平	4人	中西、角田、藤原、齋田
平成26年1月21日(火)14:00～15:00	3階フロア研修③	法人研修の伝達講習	齋田 洋平	5人	中西、角田、中井、三島、齋田
平成25年6月28日(金)14:15～15:30	4階フロア研修①	法人研修の振り返り	芝本 陽子	5人	高見、高橋、赤田、中西、芝本
平成25年10月22日(火)14:15～15:30	4階フロア研修②	法人研修の振り返り	芝本 陽子	5人	高見、高橋、多賀、佃、芝本
平成25年10月31日(木)14:00～15:00	4階フロア研修③	法人研修の伝達講習	池田 倫子	4人	川添、甲斐、齋藤、池田
平成25年11月19日(火)14:15～15:00	4階フロア研修④	法人研修の振り返り	芝本 陽子	5人	高橋、多賀、赤田、佃、芝本
平成25年12月9日(月)14:30～15:30	4階フロア研修⑤	法人研修の伝達講習	中西 彬人	3人	川添、甲斐、中西
平成26年3月17日(月)14:30～15:30	4階フロア研修⑥	法人研修の伝達講習	高橋 みどり	3人	甲斐、齋藤、高橋

### その他(小グループの勉強会)

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参 加 人 数	参 加 者
平成25年4月25日(木)15:00～16:00	小グループの勉強会①	法人理念について考える	龍造寺 千恵子	5人	太田、三島、村田、三谷、龍造寺
平成25年5月25日(土)15:00～16:00	小グループの勉強会②	ケアの3原則について考える	龍造寺 千恵子	5人	三島、飛鷹、多賀、三谷、龍造寺

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成25年6月26日(水)15:00～16:00	小グループの勉強会③	ケアプラン、サービスプランって何？	龍造寺 千恵子	8人	芝本、飛鷹、高橋、赤田、古川、池田、三谷、龍造寺
平成25年7月26日(水)15:00～16:00	小グループの勉強会④	報告・連絡・相談	龍造寺 千恵子	6人	高曾、村田、池田、飛鷹、高橋、龍造寺
平成25年8月28日(水)15:00～16:00	小グループの勉強会⑤	人事考課制度について	龍造寺 千恵子	3人	村田、三谷、龍造寺
平成25年9月3日(火)16:30～17:30	小グループの勉強会⑥	ケアプラン、サービスプランのこと	龍造寺 千恵子	4人	三島、飛鷹、高曾、龍造寺
平成25年9月17日(火)16:30～17:30	小グループの勉強会⑦	ケアプラン、サービスプランのこと	龍造寺 千恵子	6人	三島、飛鷹、榎本、益中、中西、龍造寺
平成25年10月25日(金)16:30～17:30	小グループの勉強会⑧	ケアプラン、サービスプランのこと	龍造寺 千恵子	6人	三島、飛鷹、榎本、益中、中西、龍造寺
平成25年11月2日(土)14:30～15:30	小グループの勉強会⑨	介護福祉士国家試験勉強会	高曾 昌司	3人	高橋、森、高曾
平成25年11月23日(土)16:30～17:30	小グループの勉強会⑩	本を読んで一緒に勉強しよう	飛鷹 香織	4人	榎本、赤田、田中、飛鷹
平成25年12月22日(日)15:00～16:00	小グループの勉強会⑪	シーティングを学ぼう	食事委員会	4人	村田、池田、古川、多賀
平成26年1月24日(金)16:00～17:00	小グループの勉強会⑫	本を読んで一緒に勉強しよう Part 2	龍造寺 千恵子	5人	村田、飛鷹、池田、古川、龍造寺
平成26年2月15日(土)16:00～17:00	小グループの勉強会⑬	食事動作をスムーズにする為の座位姿勢	食事委員会	3人	村田、池田、芝本
平成26年3月29日(土)16:00～17:00	小グループの勉強会⑭	職員研修会の資料を読み返す	龍造寺 千恵子	5人	飛鷹、田中、赤田、高橋
平成25年7月30日(火)11:00～12:00	自立支援介護勉強会①	自立支援って何だろう	三谷 彰	5人	太田、池田、高橋、村田、三谷
平成25年9月7日(土)14:00～15:00	自立支援介護勉強会②	水	三谷 彰	5人	太田、池田、高橋、村田、三谷
平成25年10月9日(水)15:00～16:00	自立支援介護勉強会③	排泄と運動	三谷 彰	5人	太田、池田、高橋、村田、三谷
平成25年11月20日(水)14:00～15:00	自立支援介護勉強会④	食事	三谷 彰	5人	太田、池田、高橋、村田、三谷

# 平成25年度事業報告書

報告日	平成26年5月10日
部門名	アネックス
責任者	吉田 久嗣

収入 稼働率	項目	累計	
		稼働率	収入
	目標	98.0%	278,989千円
	実績	96.8%	280,921千円
	差異	-1.2%	1,932千円
	達成率	98.8%	100.7%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	稼働率の向上	稼働率98%	平成25年度は死亡に伴う退居者が12名、入院に伴う退居者が3名で合計15名の入居者とお別れをさせて頂いた。この死亡退居に伴う新しい入居者受入までにかかった平均空床日数は6.1日/月だった。平成25年度の平均稼働率は96.8%/月だった。また稼働率に影響のあった入院については、年間延22件の入院者があり、そのうち1ヶ月程度の入院者が7名実在したことも稼働率低下に繋がったと考える。入院者及び死亡退居者を年間通じて軽減させていくためには、普段のケアの質の向上が必要で、入院や死亡と密接に関連している要因については、竹内孝仁先生の「水」のテキストを学び、須藤シニアコミュニケーションでの「水・メン・クワン・運動」の取組に触れさせていただいたことや、サービス担当者会議で「水」の重要性を説き、お年寄り個々に水分摂取量の目標を高めて取り組んできた事が入院を激減させた要因だと考える。
	コスト削減(水道光熱費の節約)	平成24年度使用量より削減	電気使用量は昨年度より1025(KW)超過、ガス使用量は昨年度より616(KW)超過、上下水道使用量は昨年度より300(m3)削減している。電気使用量の超過については、夏場の暑さや冬場の寒さが影響していると考えられるが、これまで誰も居ない廊下等共有部について徹底して消灯してきたことからアネックス全体的に雰囲気が悪いという指摘を入居者ご家族、また職員から頂いたことをきっかけにして、年度途中から廊下共有部の電気をつけてアネックス全体の印象を明るくするよう配慮してきたことも、電気使用量の増加に繋がったものと考えられる。一方で、デマンドデーターから得られる、夕方の16:00～18:00の時間帯における電力オーバーの日数は削減した。また、上下水道使用量で入浴時のお湯の使い方を再度検証し、改めて節約に努めたことや、食器洗い時に工夫したこと節水に繋がったものと考えられる。
	コスト削減(備品消耗品)	平成24年度使用量より削減	洗濯時の洗剤使用量について特に注目して削減を目指してきた結果、使用している全ての洗剤について削減を達成した。達成した要因の一つとして、昨年のような感染症(疥癬)拡大が無かったことが理由の一つになるが、アネックス内の備品倉庫の整理整頓、各備品の持ち出し方についてルールを決めたこと、毎月発生する消耗品使用量の情報共有を図れた事等が削減要因に繋がっているものと考えられる。
サービスの強化	コスト削減(おむつ代)	オムツ代が平成24年度実績(228000円以下/月)より削減。	オムツ代については、年間3495810円(税込み)となり、今年度月平均が291318円/月(税込み)を計上している。昨年度実績から、月平均63000円程度の超過額となった。費用削減に繋がらなかった結果とあわせて、改めてオムツに頼る介護から脱却していく必要性を感じた1年だった。
	接遇マナーの向上	毎月1回マナーレッスンを実施する	介護サービス向上には、接遇マナーが欠かせないということで、5月と6月にマナー研修を各月1回実施した。改めて「笑顔」、「挨拶」というテーマで研修を行い、特に表情を意識した内容を学んだ。参加者からは、短い時間の中で大切なポイントが学べ、気軽に参加できてよという評価があったが、研修後に生かせる職員が少なく、常に意識して日頃からどんな時でも笑顔で挨拶することがまだまだ全体的な課題であると考える。その後、マナーレッスンを実施に至らず残念ではあったが、法人研修で榎本圭太先生から学んだ「人間学」を参考に、接遇マナーを常に意識して取り組んでいる職員が出てきている傾向であることが、相乗効果としてあげられる1年だった。

視 点	重点取組課題	目 標 値	総 括
	日常生活の充実※余暇活動の充実	ラジオペ操を実施する(定着させる) カラオケが出来る環境をつくる※気軽に「カラオケ行こか!」と言える場所を確保する 第2回合同ボーリング大会を実施する ※フタバボウル 喫茶「アネックス」のオープン 参加している職員が楽しんで行なえる遊びリレーションの実施(1回/月)	各ユニットまたはフロアで日時を決めてラジオペ操を実施すると計画していたが未実施だった。理由としては、ラジオペ操実施担当者に任せきりにして、他人任せになっていた実情があった。 アネカラ広場=アネックスのカラオケ広場という命名で何回かカラオケ機をうららでいから借りてきて実施したが、気軽にに行けるカラオケ広場の確保には繋がらなかった。 平成24年度に第1回合同ボーリング大会を実施した事をきっかけに、第2回合同ボーリング大会を開催するべく企画まで準備していたが、フタバボウルが閉鎖となり、代替案を企画することが出来なかった。 平成25年5月から毎月第一、第三金曜日の13:30~16:00を営業時間として喫茶「アネックス」をオープンした。ほぼ、毎回30名前後の利用者ご家族様が来店され好評頂いている。 4月~7月は遊びリレーションの実施に至らなかったが、8月からは毎月第2月曜日に定期開催することが出来た。身体を動かした遊びリレーションだけでなく、福笑いや心理テスト等の新しい遊びも実施できた。
サービス力の強化	看取りケアの充実	看取った実例を振り返る場としてのサービス担当者会議を実施する	看取りに向けた話し合いがなされた後に亡くなった方3名については看取りの振り返りが出来た。また、看取りに向けた話し合いがなされなかった2名の方の振り返りも出来、計5名の方の看取りから、様々なメッセージを見出すことが出来た。特に、提供してきたサービス内容について、改めて検証する機会を得ることが出来た。
	お年寄りにとつての快適環境の整備	各ユニット環境の美化に努める(衛生面に注意する)	アネックスが開設して8年目で初めてマットレスを洗濯に出すことが出来た。お年寄りご家族からは「綺麗に洗濯してもらえて、気持ちが良い」等の声を多く頂いた。また、環境改善委員会を設置し、掃除マニュアルを策定することができた。一方で、掃除マニュアルをまだまだ生かされず、掃除マニュアルに基づいた方法が徹底されていない傾向にある。そのため、ユニット内の美化について、まだまだ課題が多い現状である。
	移乗技術の向上	定期的な移乗技術の練習の場を確保する	平成25年度は地域の皆様に介護技術をお伝えする場としてきぬがわコミセンを会場に、介護教室を開催した。地域支援課との共催で開催したこの介護教室の講師をアネックスの介護職員が担い、計6回地域の皆様に、様々な介護技術をお伝えすることができた。同時に、在宅介護で困ってらっしゃる方々から個別に相談を受ける場面もあり、具体的なアドバイスをする事が出来ず、まだまだ介護技術を充実させる必要があることも理解できた1年だった。
	感染症予防策の習得	手洗い・グローブ・マスク・マスク・ガウン・テックが正しく指導できる職員を6名養成する	感染症委員会にて、7月、12月、3月に実技研修を実施して、手洗い・グローブ・マスク・ガウン・テックについて実技指導を行なった。長谷川、竹内、福井、佐藤、向井、大木、佐藤の7名が標準予防策を学んだわけだが、実技研修以外にも抜き打ちで実技テストを都度行い、指導者として正しく説明しながら、標準予防策をマスターしているかどうかを評価表に基づいて評価した。その結果、上記7名がA評価=指導者取得した。
	ケアプラン・サービスプランに沿ったケース記録の充実	特にケース記録に残して欲しいテーマ(短期目標等)を半期に一度明確にする	ケース記録の充実を目指し、2名の職員が外部研修に参加してきた。その研修で学んだことを、ケース記録充実に生かそうと内部研修を企画したが実施に至らなかった。サービス担当者会議では、ケース記録に残して欲しい記録の確認がなかなか出来ず、ケアプランとの連動についてもケース記録に反映させることが出来ずに終わった1年だった。
業務の改善	入居者ご家族様からいろんな気付きを頂き少しでも業務改善に繋げる	ご家族様と気軽に懇談できる場を確保する(最低1回/年)	2月には1階フロアに入居者ご家族をお招きして「いきいきサロン」を実施した。ご家族様には、介護保険制度の動向や福祉人材の確保が困難になってきている状況をお伝えしながら、一緒にお茶を飲みながら、情報交換をさせていただいた。参加されたご家族からは、知らなかった高齢者福祉の動向が同じで勉強になったという意見や、職員とゆつくりお茶を飲みながら話しができて、距離が縮んだような気がする等のご意見を頂き、本当に良かったと考える。





平成25年度 アネックス館 内部研修会 実績

月	日	時間	研修名	参加人数	担当
4月	12	15:00～16:00	夜間緊急対応①	7	南看護リーダー
	19	14:30～15:00	防災設備と消火器の扱い方	10	防災委員会
6月	12	14:00～15:00	遊びは何のためにするのか？実技と講義で学ぼう	13	遊び委員会
	17	14:45～15:45	感染症を知って予防しよう「疥癬・O-157」	5	感染対策委員会
	26	15:15～15:45	痙攣対応の研修会	9	南看護リーダー
	30	15:00～15:45	接遇マナー内部研修会	9	近藤・吉田
7月	13	15:00～15:45	日常標準予防策テクニク	8	感染対策委員会
9月	22	14:10～15:10	介護力向上講習会「水」	6	矢野・長谷川
	30	15:00～15:45	介護力向上講習会「認知症」	5	中村・向井
10月	28	14:10～15:10	介護力向上講習会「食事」	6	矢野・長谷川
	31	14:30～15:15	ユニットケアについて	4	竹内・長谷川
11月	17	14:30～15:30	感染症を知って予防しよう「ノロ・インフルエンザ」	6	感染対策委員会
12月	1	14:00～15:00	感染症を知って予防しよう「ノロ・インフルエンザ」	4	感染対策委員会
	17	15:00～15:45	日常標準予防策テクニク	5	感染対策委員会
1月	25	15:00～15:45	共に学ぶシリーズ「看取り事例から学ぶ研修会」	13	吉田

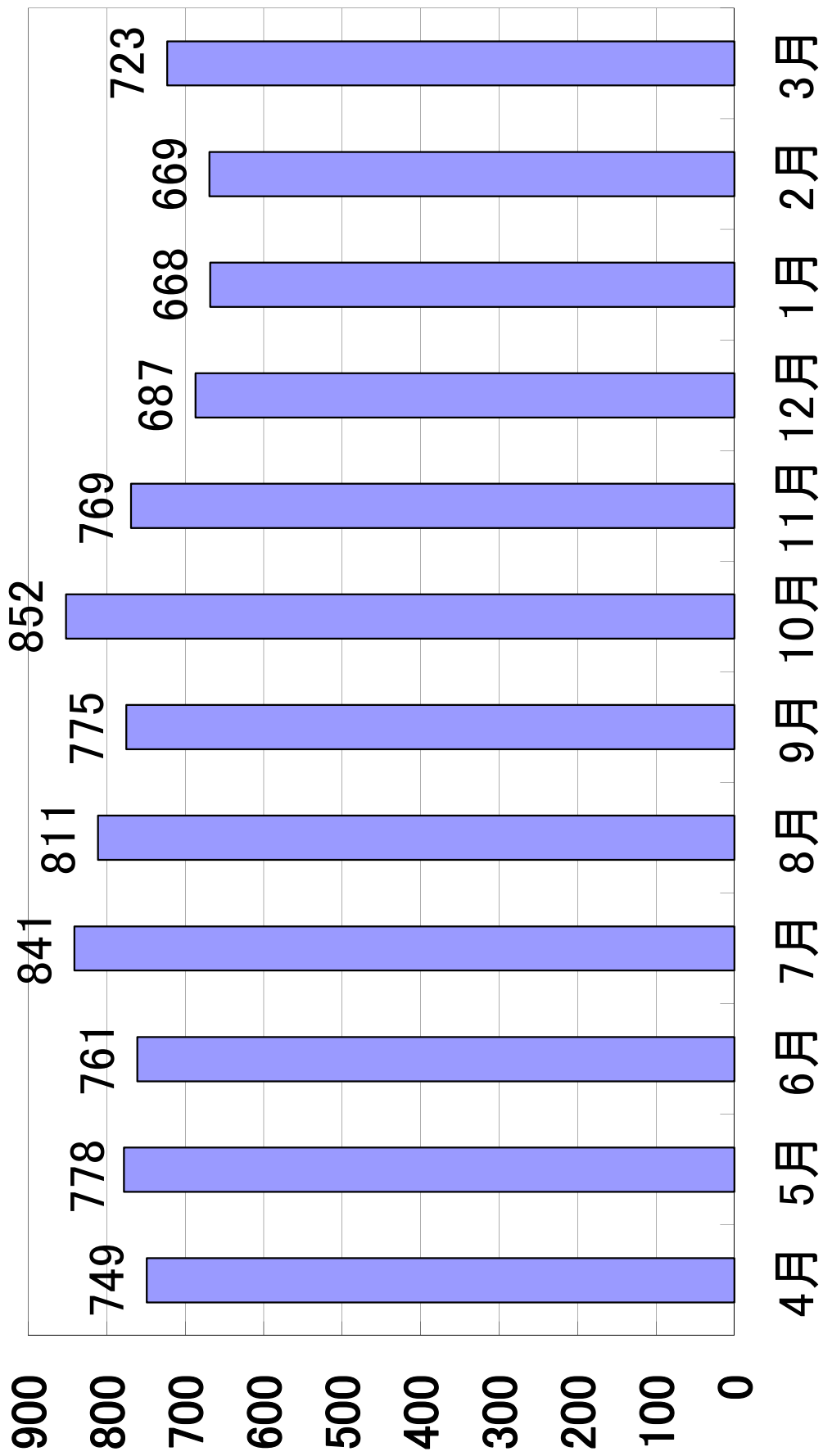
# 平成25年度事業報告書

報告日	平成26年5月7日
部門名	通所介護課(うちらら)
責任者	小林 真也

収入 稼働率	項目	累計
	稼働率	収入
	目標	84,000千円
	実績	82,866千円
	差異	-1,134千円
	達成率	98.7%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	月間稼働率の向上・利益目標	月間稼働率80% 700万/月	4月～12月までは月平均収入が700万を達成できました。1月以降は体調不良から入院者も多く、実績が減少しました。利用者家族や居宅介護支援事業所へ、月刊ちららの配布や施設内掲示を行ったり、行事毎のポスター作成と掲示し利用者にも分かりやすく案内しました。
サービスの強化	レクの充実	毎月	季節ごとに外出ドライブを企画し実施しました。王子フェスティバルには作品を数点出品し、当日も会場に足を運びフェスティバルに参加しました。児童との交流では、明光保育園(9月)・あかちゃん先生ブロンズ(12月)・持子保育園(3月)と、活動の機会を持つことができました。第3回芸術祭を11月に開催しました。利用者家族や居宅介護支援事業所、地域のの方々へ案内し、見学に来て頂きました。アンケートでは木目込みなどの作品に評価が集中しています。外出活動では、月3日間の買い物ツアーや月替わりで喫茶・外食ツアーを実施し、アネックス2階庭園でピクニックも行いました。今月の歌として、唱歌・歌謡曲・童謡などから選曲し、季節に応じた歌集を毎月作成し活用しました。
	食事の充実	年4回以上	季節に応じて喫茶メニューに限定ドリンクを提供し、喫茶の充実を図りました。利用者意見を食事に反映する企画『わくわくランチ』は年4回実施し、ランチ目当てに臨時利用して下さる程、人気の企画になっています。
	家族との交流	年2回	家族向けの屋敷食事を開催致しました。8月3日(土) 11名参加。3月26日(水) 7名参加。待ち時間に家族同士の交流もあり、介護者として同じ悩みを抱える方々との交流、自宅では見せない利用者の表情やデイでの過ごし方が分かり、非常に良い機会となりました。
	ケースカンファレンスの開催	2ヶ月に1回	2ヶ月に1回奇数月に開催しました。通所介護計画書を基に、サービス内容の確認や支援に難しさを感じている利用者対応について、全スタッフで話し合いました。介助方法の統一やスキルアップに繋がりました。
	ケアプランの管理・運用	随時	利用者別に介護度や認定の有効期間、更新月を記載した一覧表を作成し、通所介護計画書の適正な管理に努めました。6ヶ月間の管理表活用状況について、管理表作成担当者が話し合い、再作成を重ねました。
	事故やヒヤリ・ハットを活かした改善	定例会議で検討	業務終了前のミーティングで当日のヒヤリ・ハットを確認しノートに記載しました。定例会議では集計した結果から、発生場所・発生時間帯・利用者などを特定し、再発防止策について話し合いました。定例会議では、再発防止策が妥当であったかどうかとも確認し、事故を未然に防ぐ努力を行っています。
	業務時間の使い方	毎月	事務業務を担当制として導入することは出来ていない。月毎に、スタッフ個々が抱える事務量を確認し、都度の対応をしてきました。
	書式の見直し	毎月	課内で異なった書式を使っていた為、独自の書式を廃止し、法人書式を使うように随時変更を行いました。
	環境整理	毎日	デイルーム内の棚は、各自が出した物を元あった場所に片づけることで整理できらと思うが、誰もが使いやすい収納までは片づけることが出来ていない。和室に関しては、芸術祭などの材料の置き場所となってしまい片づけることができていない。
	人材・組織力の強化	職員スキルアップ	随時

# 平成25年度 ちらら 月別延べ利用者数



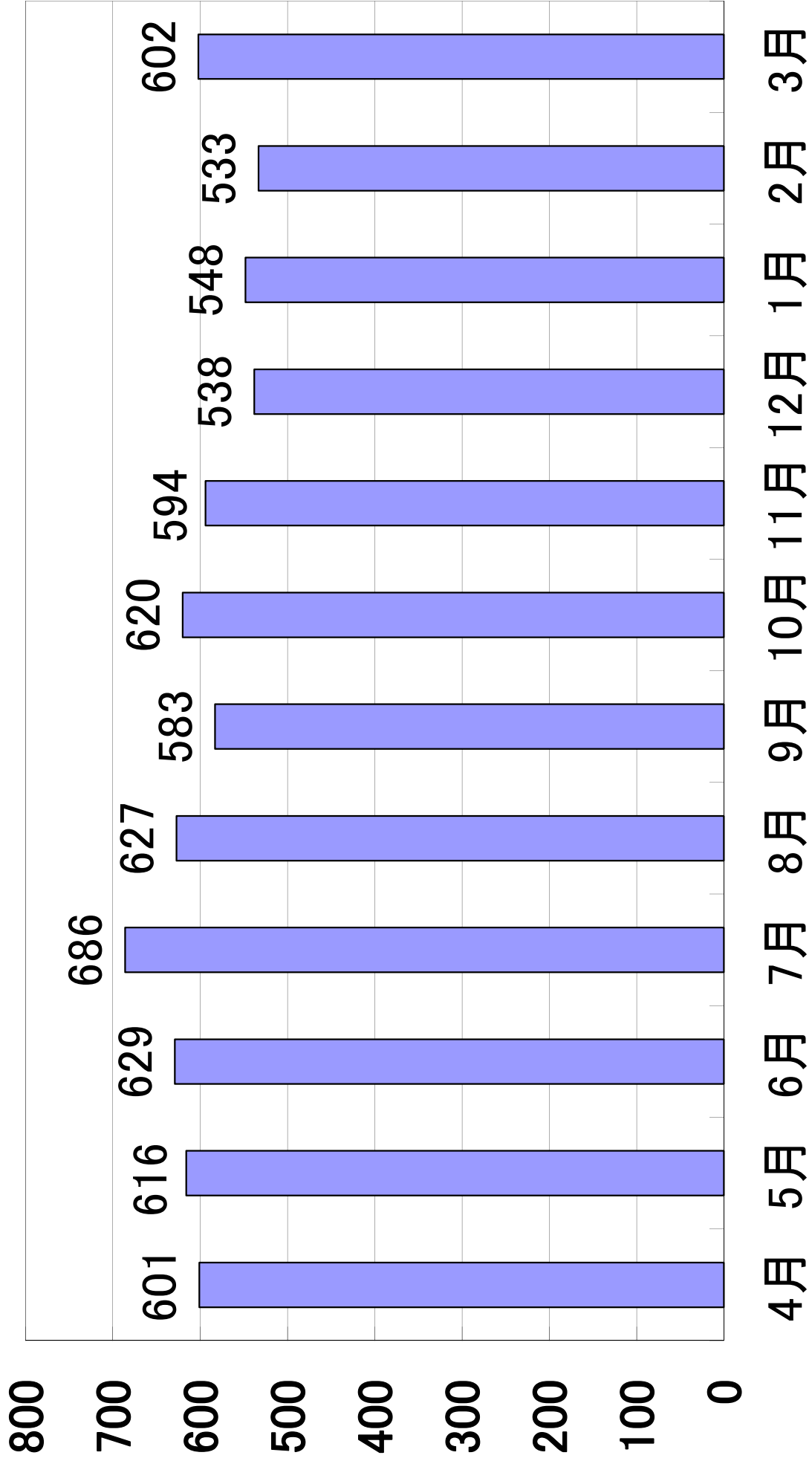
# 平成25年度事業報告書

報告日	平成26年5月7日
部門名	通所介護課(きらら)
責任者	小林 真也

収入 稼働率	累計		
	項目	稼働率	収入
	目標	80.0%	72,000千円
	実績	66.5%	64,984千円
	差異	-13.5%	-7,016千円
	達成率	83.1%	90.3%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	稼働率の向上 利益目標	稼働率80% 収入600万円/月	稼働率未達成。収入も7月は600万を達成したが、その他の月は500万円を下回る月もありました。毎月の居宅周りは継続し、7月には大久原や神戸市西区を中心に営業活動を行ったり、各支援センター・ソーシャルワーカーへの営業活動もしました。年間体験利用者の依頼は25名。新規利用者20名となっています。利用者担当の介護支援専門員への連絡・報告・相談を強化して行いました。
	コスト削減・備品の管理・環境整理	毎月の会議で検討	毎日行う掃除については、掃除箇所の再確認、いつ、誰がするかなどを確認し、設備の美化に努めました。特に利用者からご指摘を頂くトイレの美化については、時間ごとのチェック業務作成し、サービス提供時間中は汚れやトイレトベーパー確認などを行って美化に努めています。12月には休業日にスタッフ全員で大掃除をさせて頂き、不用品の整理や棚の有効活用にも繋がっています。備品整理をしたことで、備品の管理がしやすくなり、在庫の把握や備品の出入入れなど業務の効率化にも繋がっています。
サービスの強化	レクリエーション・行事の充実	随時	年間行事予定に基づき、全ての行事を実行しました。新たな試みとして、季節の花の栽培や介護の日に介護者家族に日々の感謝を伝えるなどのレク企画も導入しています。毎月外出先を決め、外出支援の強化を進めました。色紙を使ったちぎり絵やベイトポトルキヤップを使用した作品作りにも取り組んでいます。地域作品展や子どもたちの合同芸術祭にも出品しています。年度途中からは、3種類のレク活動から、利用者が選択して活動ができる選択レクの導入も進めています。利用者自身がやりたいことを選択できている方と出来ない方がみられた。昼からの時間を活用し、個別リハビリを導入しています。全スタッフがリハビリメニューが提供出来るよう内容を冊子にまとめ、指導を行いました。うららとレクリエーターを交換し、新たなレク活動を利用者にも楽しんで頂けました。
	食事の充実	年4回以上	利用者さんに食べたいメニューを伺い、意向の中から栄養士と相談したメニューを”選んでいいとも”と題して、毎月食事提供しました。その他、季節行事に絡めて食事の充実を図っています。
業務の改善	ケースカンファレンスの開催	2ヶ月に1回	奇数月に開催致しました。新規利用者の利用状況の確認や支援に難しさを感じる利用者を中心に話し合いを行いました。個々のケースを様々な視点から話し合うことで、困難事例への対応や考え方、スタッフの介護観の共有など、チーム力強化に繋がりました。
	ケアプランの管理と運用	随時	管理表(案)を作成し、うらら担当者で協議しながら、課として統一した管理表を作り、継続した管理方法を確認しました。管理表を活用し、毎月モニタリングや再作成を行っています。
業務の改善	記録の改善	随時	通所介護計画書作成マニュアルを作り、作成に活用しました。居宅サービス計画書から通所介護計画書に至るフォローチャートを作成やモニタリング評価表の書き方を新しくして活用中です。
	事故やヒヤリ・ハットを活かした改善	定例会議で検討	毎月の定例会議で、月ごとの集計結果について検討を行いました。更なる充実を目指し、ヒヤリ・ハットの情報の取り方に検討が必要です。
業務の改善	書式の見直し	随時	課内で異なった書式を使っていた為、独自の書式を廃止し、法人書式を使うように随時変更を行いました。
	担当業務の見直し	随時	時間を作り書類等の作成機会を作ったが、事務業務を担当制として導入することは出来ていない。月毎に、スタッフ個々が抱える事務量を再確認し、都度の対応を促しました。
人材・組織力の強化	職員スキルアップ	随時	2ヶ月に1回 課内で内部研修を開催し、スタッフのスキルアップに繋がりました。OJTツールを作成しスタッフ面接も行っていましたが、目標値に達しておらず、有効活用には至っていない。課内交流は毎月行いました。月2回のレク交流や送迎対応を随時、協力しています。月に数回程度の交流では、どちらのデイでも業務が行えるレベルに達していない。認知症利用者1名にターゲットを絞り、利用毎にノートをつけ変化の記録しました。家族の協力を得ながら、ご本人支援の手がかりを記すことで、気づいたことを支援に活かす、より良い支援に繋げる事ができました。

# 平成25年度 さらさら 月別延べ利用者数



# 平成 25 年 度 事 業 報 告 書

報告日	平成26年4月
部門名	訪問介護
責任者	大岡 副文

収入 稼働率	項目	累 計
	稼働率	収入
	目標	11,789千円
	実績	11,684千円
	差異	-105千円
達成率	99.1%	

視 点	重点取組課題	目 標 値	総 括
財務状況の改善	新規獲得	登録者数40名	3月請求実績33名。毎月居宅への営業を行ったが、目標の40名には届きませんでした。ただ、新規は少しづつではあります。獲得できています。
	介護保険外サービスの実施	10月実施	内部体制が整わず、実施には至りませんでした。
	介護保険外サービスの実施		明確な外出のニーズがなかったため、実施には至りませんでした。
サービス力の強化	介護技術の向上と再確認	年2回	登録ヘルパーが事務所に訪れた際に時間を作り、個人ごとに指導を行った。全員をまとめて介護技術講習ということは行わなかったが、個別に行ったことにより、密な指導ができた。
	業務の改善	訪問介護計画書の作成 手順書の見直し 基本情報の書式の見直し 事務所内利用者ファイルの整理 内部監査の実施	内部監査を実施し、現状把握を行った。 内部監査の結果、モニタリングの書式は変更したが、その他の書式の変更までは行えなかった。
人材・組織力の強化	職員全員のスキルアップ	1回	登録ヘルパーにも施設内、外の研修を案内し、積極的に参加を促した。また、随時サービス提供時の様子も見に行き、指導を行った。
	法人マニュアルの徹底		接遇マニュアルについては個別に説明を行ったが、徹底までには至らなかった。

# 平成25年度事業報告書

報告日	平成26年4月19日
部門名	地域支援課
責任者	長尾史憲

収入 稼働率	項目		累計	
	稼働率	収入	稼働率	収入
		26,760千円		26,760千円
		25,244千円		25,244千円
		-1,516千円		-1,516千円
		達成率		94.3%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定事業所加算Ⅱを継続して取得する</li> <li>収入月額223万円を達成する</li> </ul>	給付管理(介護)195万 (予防)10万 認定調査18万(目安)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度についても、特定事業所加算Ⅱの取得は継続</li> <li>その他加算についても積極的な取得を行う</li> <li>収入月額については、介護での居宅介護支援費(1,880,958円)予防委託料(92,752円)認定調査委託費(223,528円)で、月額平均は、2,197,238円となり、年間を通じて平均での月額223万円については未達成。第2・3四半期での平均値については達成しているが、第4四半期でのケース数の落ち込みがみられた</li> <li>新規ケースの受託については、平成25年度の実績は28件であった</li> </ul>
サービス力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所全体でのケアマネジメントの質の向上を図る</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回、課内ケースカンファレンスの際に、ケース検討を実施。それぞれのCMが課題を感じているケースについて、他職員の意見を求め、ケアマネジメントについても検討する機会となっている</li> <li>課内研修については、それぞれが担当を決め、課内でプレゼンを行う形を実施</li> <li>地域包括支援センターの実施する研修会その他についても参加し、研修機会を確保している</li> </ul>
業務の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれがコスト意識を常にもって業務にあたる</li> <li>個人情報取り扱いに注意する</li> <li>情報伝達手段の見直し</li> <li>部署内で忌憚ない意見が交換できる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>コスト意識については、空調、電話の使用、ファイルの再利用、両面印刷といった個人でも取り組める内容については個々の努力で行っている</li> <li>個人情報取り扱いについては訪問以外の持ち出しを禁止している。在宅介護支援センターの台帳については1台のPCのみで管理</li> <li>情報伝達手段については、電話が中心にはなっているが、その他、FAX・メールの使用も行う</li> <li>課内カンファレンス、課内会議、ケース検討にて、積極的な意見交換を進めている</li> </ul>
地域資源になりうる事業所・人材となる	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅介護支援センターとして、地域でのより所となれるための連携を進める</li> <li>地域づくりの視点をもち、支援センターならではのアウトリーチ機能も活かして地域へのアプローチを進める</li> </ul>	年6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護技術教室については、アネックス職員の協力を得て年間で6回実施する。参加者については少人数であったため、今後については、広報の手段、場所等についての検討を要する</li> <li>8月に西新町郵便局にて出張相談を実施。その後、さらにダイヤサービスセンターを利用しているサテライト相談へ発展的解消している。サテライト相談については、毎週2回実施</li> <li>認知症サポーター養成講座については、衣川すこやかサロンで1回実施、その他郵便局からの依頼を受けての実施、高齢介護室からの依頼での実施(西明石ブロック在宅介護支援センターにて)、野々地在宅介護支援センターからの依頼にて実施している</li> </ul>

# 平成25年度事業報告書

報告日	平成26年4月28日
部門名	グループホーム プリランテ明石
責任者	峰 広貴

収入稼働率	項目	稼働率	収入
	目標		98.5%
実績		99.6%	84,887千円
差異		1.1%	3,012千円
達成率		101.1%	103.7%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	① 目標稼働率の達成	① 98.5% (空室100以下)	年度中に、入退居はなく、入院者も持病の短期入院治療、体調の悪化による短期入院はあったものの、長期に渡る入院者は出なかった。空室日数は年間通して、21日間。稼働率は99.6%であった。
	② 消耗品の使用量削減	② 消耗品使用量を前年の9割にす る	物品担当者を決め、年間通して使用量を把握しながらやってきたため、全体的には使用量は前年度の9割以下に抑えることが出来た。但し、食中毒予防や衣類汚染増加の為、塩素系、酸素系共にハイターの使用量が増加した。
サービスの強化	① 地域とのつながりの強化と貢献	① 1人でも多くの方に『プリランテ明石』を知ってもらう	自治会活動への参加は、6月の王子公園の清掃のみにとどまっている。出し物のボランティアはあかねゲンキーズから来ていただき、クリスマス会を実施。その他、フラダンスのボランティアにも来ていただいた。地域のイベントには、看護大学の学園祭や王子フェスタ、とんど祭りには参加できた。実習生、トライやらのウィークの受け入れは、希望があった場合には行ったが、実習生については、生徒側の都合により途中で中止となった。ボランティアの方への『認知症』の理解を進める取り組みは実施できず。運営推進会議は、2か月に一度の定期開催が出来ている。中央法規の『月刊ケアマネジャー』に掲載されたことで、考え方や取り組みを世間知って頂く機会となった。
	② マナー・接遇の向上	② パートナー1人1人がマナー・接遇を常に意識できるようにする	4、6、10月にマナー通信を発行し、意識付けを行ったが毎月数月での発行は出来なかった。しかし、法人の接遇マニュアルの作成や仮実施があり、比較的接遇に対して意識出来た年度になったと思われる。しかし、まだまだ他人事と感じているパートナーもいるため、26年度も継続して意識付けしていく必要がある。勉強会では実施できていない。
	③ 日常的な外出	③ 外に出るのが特別なこととなく る	買い物、散歩、外食は日常的に行えるようになってきているが、外食や散歩など大勢で行くことが多く、一人一人に合わせにくくなっている点で考えなおす必要性を感じている。
	④ 自治会の開催	④ 1回/2か月	1度一階にて『ゴミ捨て当番』について話し合いが出来たが、それ以外は実施できていない。ただ、どうしても色々なことがパートナー主体になってしまっている点は今後の課題と感じられる。
	⑤ ケアプランを形だけにしない	⑤ 入居者さんのカンファレンスへの参加100% ⑤-2 パートナーがケアプランに沿った内容のケース記録が書けるようになる	カンファレンスへの入居者さんの参加はほぼ確実にできており、発言もしていただけている。また、ケアプランに沿ったチェック表、個別の申し送り項目の様式も作成、更新が定着してきている。ケース記録については、まだパートナー間で意識の差がある。
	⑥ 非日常的な外出	⑥ 1回/2か月	ポップサーカス、イチゴ狩り、姫路好古園、龍の湯、湊川商店街、新開地劇場、明石海峡大橋プログラムナード、カラオケボックス、王子動物園などへの外出を実施した。これらについては、個別での外出として行った。
	⑦ ご家族が面会に来たくなる場所にする	⑦ ご家族が、入居者をケアする 上での協力者になる	ご家族参加型のイベントとしては、家族交流会(2回)、夏祭り、敬老会にはご家族にも案内をし参加頂けた。また、ご家族へのお手紙は、継続して実施できており、お返事を頂いたケースもある。今後継続して実施していく。アルバム作りは、ゆっくりにあるが、担当者が中心となって進められており、面会にいらしたご家族や入居者さん自身もみていただいたり、楽しんで下さっている。



視 点	重点取組課題	目 標 値	総 括
サービス力の強化	⑧ 『事故報告書』や『ヒヤリハット』が活用できるようになる  ⑨ 重度化、ターミナルの指針づくり	⑧ 事故防止に対するパートナーの意識が高まる  ⑨ 文書にする	9月～11月にかけて、事故防止に関して勉強会を実施し、事故報告書やヒヤリハットの意味や重要性について検討した。パートナーの多くが、意識をその後の業務にあたることが見られており、ヒヤリハット記録の増加や、事故の減少が見られた。しかし、年度末になるにつれ、再び意識の低下が見られるため、継続的な意識付けが必要だと感じられた。ヒヤリハットや事故報告の分析を行うようになり、時間帯、事故の種類、幅など浮かび上がってきたこともあるので、今後それらを活かして行く必要がある。  文書として完成し、グループホームとしては、ターミナルケアを実施しないこととなる。また、特養も話し合いを持つことができ、法人としてのグループホームの役割が共有できた。また、ご家族への説明も機会も設け実施することが出来た。今後、特養への入居を希望される方については、個別のケースで特養部門ともやりとりをしながら、進めていくことになる。
業務改善	① 申し送り時間の短縮  ② 夜勤帯の時間の活用  ③ 『掃除の日』を作る	① 必要な申し送りが10分程度でできるようになる  ② 全員が決めたことをもれなくできるようにする  ③ 2回/月	ケアプランチェック表に個別に申し送りが必要な事項を記載し、もれなく申し送りができるようにしているが、時間の短縮には必ずしもつながっていない。パートナーによっては、まだまだ時間をかけてしまっている場面も見られる。  夜勤帯の業務表をチェック式で作成し、漏れがないようにしているが『出来ない』『あるいは』『しない』『パートナーもいるのが現状。主任、副主任等から指摘し、改善するように働きかけている。現在の所、よほどのことがない限り、夜勤帯で時間が足りないという意見は出てきてはいない。
人財組織力の強化	① チームとしてケアをする  ② パートナーの成長  ③ パートナーの繋がり強化  ④ グループホームで必要な人材像を具体化させる  ⑤ 働きやすい環境作り	① 短時間で効果的な『フリ会議』の運営  ② 部署内勉強会を活発化させる	年度前半には、『掃除の日』を作り実施できていたが、入居者のさんの状態の進行や予定の増加により、日程を確保することが難しくなってきた。後半では月に一度実施するのが精いっぱいという状況であった。  上手く進められておらず、チームとしての意思統一の場として機能していない。特に多く集り、活発に意見交換ができるはずの夜の会議に出席する価値を見いだせていない。パートナーもおり、チームとしてケアをするに至っていないように感じられる。年度末ごろからは、ケアの考え方の部分も議題に取り入れ、少しずつ意思統一の場になりつつある。  パートナーの退職などがあり、予定していた勉強会が実施できなかつた。また、パートナー全体数が少ない為、一回の勉強会の参加者が3名などということもあり、活発な意見交換がしにくい状況でもある。人が集まると、どうしても入居者のさんの入浴時間の減少につながってしまっているため、今後は取り組み方も含めて検討していく必要がある。  同世代のパートナー同士は比較的、関係を密にしているように感じられるが、年齢層の違うパートナー同士は、まだまだお互いに気を使ってしまう部分があるように感じる。その部分のマイナスの影響として、パートナーに遠慮し、入居者さんに我慢してもらったことでもある為、『理念を共有する組織としての繋がり』を強め、皆が入居者さんの方を向けるようにしていくことが今後の課題と思われる。
		④ グループホーム版『専門要素評価表』の完成	グループホーム版『専門要素評価表』は完成したが、完成が遅れたため25年度の評価に使用することは出来なかつた。  正規職員2名、非常勤職員1名、夜勤専門職員1名が退職となった。職場への不満が無いとは言えない状況での退職であったため、改善の余地があるかと思われる。主任、副主任が不定期ではあるが、パートナーの話を聞く機会を設けており、それらを改善策に繋げていく必要がある。

# 平成25年度事業報告書

報告日	平成26年4月
部門名	総務部
責任者	松浦 養

収入 稼働率	項目	累計
	目標	稼働率
	実績	
	差異	
	達成率	
収入 稼働率	収入	

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	<p>消耗品のコスト削減 節電</p> <p>収支状況を明確化する</p>	<p>コピー用紙使用量の削減 平均値を設定する 無駄を省く</p> <p>各会計の収支を数値化し、分析する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部内会議や部内で使用する書類については両面コピーや裏紙の使用を徹底して行った。又節約に関して掲示も行った。</li> <li>毎月の備品の購入(私出)量について、昨年対比した表を作成し、部内会議に提出し、情報を共有した後、各課へ配布及び使用量が増えている課については、使用方法等の見直しと検討を行い、使用量の削減に努めた。</li> <li>デマンドが発報すれば即対応した。</li> <li>総務が、率先して電気を消すことや1階のフロアについてもチェックできていた。</li> <li>毎月(4月～12月)部署長へ収支報告を行う予定であったが、月によっては部署長との都合が合わず遅れることもあった。</li> </ul>
サービスの強化	<p>顧客満足度の向上</p> <p>入居者・家族と入居相談の満足度を上げる</p>	<p>懇切丁寧な対応</p> <p>退存の様式の見直し 入居対応の共通認識・対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総務全体が挨拶すること、声かけすることを心掛け、取り組むことができ、お客様から「事務所の職員さんは明るく挨拶して頂き、良い雰囲気ですね。」と言われるようになった。が、反面まだまだお客様に気がつかなかったこともあった。</li> <li>今後も至らないところもあるが、気を付けて、良い雰囲気を継続していく。</li> <li>窓口レイアウトの変更と同時に部署内のレイアウトの変更を行い(6月)、美化を継続することができた。</li> <li>入居対応マニュアルを総務部会を中心に話し合いマニュアルを作成した。</li> <li>預り証、返還証の書式の見直しをし、入居者のご家族に待っていただく時間を短縮するようにした。</li> </ul>
業務の改善	<p>業務環境の整備</p> <p>残業の管理</p>	<p>事務所内の美化活動</p> <p>イレギュラー項目を書き出す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通じて定期に清掃した。(毎週日曜日)</li> <li>事務所内共有にて毎月スケジュールを管理した。(パソコン内で、部内のスケジュールを管理することにより、業務の進捗状況を確認でき、協力ができた。又、施設長のスケジュールも分かり、スムーズに業務の確認ができた。)</li> <li>共有できる業務は、次年度以降も部内で協力し合えるよう努める。</li> <li>残業が減った理由の一つに始業の際の1日のスケジュールの確認がある。これは継続してやっていく。</li> <li>当初数か月は急用以外に18:00過ぎても色々な依頼があった。現在は件数は減った。</li> <li>大半は定時から1時間以内に退出できるようになった。が、まだ協力し合って能率よく仕事ができるように思える。</li> <li>報告書を作成し、情報を共有した。</li> </ul>
人材・組織力の強化	<p>人材の確保</p>	<p>実習生と交流をもつ 定着率UP</p> <p>webの活用 facebook, twitter, blogの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特養の実習に来た実習生と交流の時間(茶話会)をもった。</li> <li>特別な日を設けてなんでも相談会の実施はしていないが、何でも相談に事務所に来てくれるようになった。(特に土、日曜が多くなった。)</li> <li>休憩室で食事するようになると、色々な職員や実習生と話せる機会が多くなった。次年度はもっと活用したい。</li> <li>webの活用における部内研修を実施した。</li> <li>また、十分に全員がwebを活用できていないので、次年度も継続して、活用できるように努めていく。</li> </ul>

# 平成25年度事業報告書

報告日	平成26年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島 特養
責任者	竹内 民子

項目	累計	
	稼働率	収入
収入稼働率	98.0%	331,664千円
実績	97.5%	332,289千円
差異	-0.5%	625千円
達成率	99.5%	100.2%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善  経費削減	稼働率	98%	稼働率については、上半期96.6%、下半期98.3%、年間97.5%で稼働した。退所者18名の内訳としては、施設での看取り9名、入院死亡3名、長期入院6名となった。退所後、新入居の受け入れは、概ね一週間でいった。退所後、新入居の受け入れは、概ね一週間でいった。入院に関しては、延べ人数29名、延べ日数494日。外泊に関しては、延べ人数4名、延べ日数17日。入退所の空室延べ日数125日と合わせると、年間の空床日数は636日となった。今年後は、11月と2月に稼働率100%を達成したものの、上半期の入院日数が大きく影響し、98%の稼働率は達成できなかった。
		電気の点けっぱなし、湯の出っぱなしを無くす	昨年度、入浴準備で浴槽に湯を張る際、湯を出しっぱなしにして水道、ガスの無駄な使用が目立っていた。今年度、各ユニットにタイマーを配布し、無駄な湯の出しっぱなしを無くすように努めた。結果、水道とガスの使用量を削減する事ができた。電気の点けっぱなしに関しては、いまだ所々消し忘れはあるが、以前に比べ職員の意識も高くなり、消し忘れがない様に取組んでいる。電気使用量についても削減できた。
		おむつ代230万円未満	排泄用品の使用量に関しては、年間を通してほぼ横ばいで推移し、昨年度242万円に対して今年度236万円でコスト減となったものの、目標の230万円未満は達成できなかった。また、竹内孝仁氏理論の取り組みにより、入居者の水分摂取量が全体的に増え、同時に排尿量も増加したが、排尿量に合わせたバットへの変更はスムーズに行えた。
		消耗品の無駄をなくす	備品庫の出入りファイルを整理し見やすくした事で使用量の把握がしやすくなった。良く使う消耗品について1か月間の使用数とその費用(月10万円前後)を把握した。洗剤ビッドについては高価なため、計量カップを容器に付けたり、使用量を細かく指導し、1年通して使用量は変化がなかった。ペーパータオルは一部の利用者が目的以外に多量持ち出している為今後の課題となった。グローブは安価な製品に変えた。
サービスの強化  介護サービスの質の向上		エコタオルの充足	エコタオルが定着したことにより、下用タオルの使用が前年度より減少した。エコタオル切りは定期的に退去されたご家族がボランティアで来てもらっている。ユニットでも時間を見つけて切っており、ユニットにエコタオルがない状況は改善された。
		ケアプランを意欲したケアの徹底	新しいモニタリングシートは定着した。チェック方式にしたので、サービス内容の出来ている事と出来ていない事が把握しやすくなった。4月から1月末までに一人平均1400ケースの入力があつたが、ケアプランの入力は1桁から3桁と職員によって差がある事がわかった。特にユニットによって差が大きかった。モニタリング報告の内容が担当者により差がある。今後個人的な指導が必要である。記録の勉強会が出来なかった。24時間シートの戻置しはモニタリングの時に出来ている。
		入居者が主体的に暮らせる機会が増える	毎月、入居者が給食会議に出席し、厨房委託業者と施設職員を交えて日々の食事の感想や希望献立について話し合う事ができた。入居者からは積極的な意見もあつた。また、ユニット内での調理、外出に関するも、職員主導で行わず、企画、実施に至るまで入居者と共に話し合い、取組めたことは良かった。
		便失禁が減り、トイレでの排便が増える	竹内孝仁氏の理論の取り組みにより、水分摂取量がアップし、下剤が不要となり、トイレで自然排便できる入居者が増えた。引き続き、水分摂取量を意識しながら、便失禁の回数を減らし、トイレで気持ち良く排便ができるように取組む。

視 点	重 点 取 組 課 題	目 標 値	総 括
	介護サービスの質の向上	介護施設におけるマナーを知って、実践する	入居者、家族からの啓啓品について、家族に書面、口頭でご遠慮の旨を伝えた。介護施設におけるマナーについては、法人全体で取り組み、当施設からも介護主任が1名出席し、正式な接遇マニュアルとして出来上がった。
	環境整備	清潔な環境で過ごせる	家事援助検討会で話し合い、台拭きの枚数を増やし、テーブルをこまめに拭くようにした。シーティングの研修に参加した職員の指導で傾きのある利用者の姿勢をまっすぐにすることで食べこぼしが減った。床の食べこぼしは注意されなくてもトイレットペーパーやエコタオルで拭く意識が出来て以前より床がきれいになった。パート職員不足をシルバー人材センターからの派遣職員で補い、掃除や洗濯物の片づけを集中して行ってもらった。
サービス力の強化	介護事故削減	職員全員が常に服薬介助の声出し確認ができる	誤薬事故の予防としては、服薬介助の際の声出し確認『薬袋の名前を声に出し、入居者の顔を見て、間違いない事を確認してから介助する事』をリスクマネジメント委員が中心となって取り組んだ。また、毎月のユニット会議で必ず服薬介助の状況について議題に上げ、全員が誤薬事故の防止に努めた。服薬介助の声出し確認は、施設全体に浸透し定着したが、引き続き注意喚起を行っていききたい。
	介護事故削減	表皮剥離の予防ができる	今年度の表皮剥離の件数は26件(昨年度よりも10件減)。主に認知症の症状が深く、車椅子の自乗ができる入居者に多かった。剥離に気付くのは訪室時に多く、発生状況が分からないケースが目立った。全介助が必要な方で介助中に発生した件数は3件あったが、対策を実行してからは発生していない。入居者の多くは皮膚が弱く、内出血を起こしやすい状態にある為、表皮剥離の予防としてドレッシングテープの利用、アームカバーやレッグカバーの使用、車椅子や家具の保護など、その方の行動を制限しない事を前提として対応可能な範囲で出来る対策を行った。
	感染予防	一つ一つの業務を確実に行う(医務)	毎朝ミーティングを行い、その日の業務の確認をし、各担当を決めて協力し合い、安全に行う事ができた。
	地域との連携強化	地域の行事、活動への参加	手洗い、うがいの徹底によりインフルエンザは数名出たが、集団感染には至らなかった。
	広報活動	タイムリーな更新	江井島地区の活動への参加に関しては、5月にコミセン祭り、11月にはスポーツフェスティバルとため池クリーンキャンペーンに参加した。入居者の参加人数は、コミセン祭りが6名、スポーツフェスティバルが6名、ため池クリーンキャンペーンは職員が3名、参加した。その他、れんげ祭りやコスモス祭りなどの地域行事にも参加できた。テイスサービスの浴室を地域に開放できるかどうかの話に関しては、25年度はとくに進展せずに終わった。
業務の改善	業務の効率化と残業の管理	業務の省力化 休憩時間の取得 全員が事故、ヒヤリハットの区別をして記録できる	例年通り、プログラムの更新を定期的に行う事ができた。その日の出来事をその日のうちに更新する事が出来ない時もあったが、入所相談を受けた際、ご家族より「ブロックを見ました。色んな事をされているのですね。」と言われ、特養のイメージが変わったというご家族もいた。なかなか言葉では伝えきれない事をブログが補ってくれている事を感じた。引き継ぎ、更新を行っていききたい。
	伝達講習を開く	伝達講習を開く	毎日ではないが、ほぼ休憩がとれているユニットもあれば、業務を省力化しても食事全介助の重度の利用者を4～5人抱えるユニットや職員不足のユニットでは休憩が取れなかった。
人材・組織力の強化	高齢者体験研修の継続	高齢者体験研修の継続	平成24年度にリスクマネジメントに関するアンケートを実施し、平成25年8月から事故とヒヤリハットの境界について本格的に委員会で見直しを開始した。見直しは継続中であるため、引き続き26年度も行っていく。
人材・組織力の強化	竹内孝仁氏著書の『自立支援介護ブックレット』4冊を各ユニットで回し読みした。各ユニットで水分摂取を意識して取り組んだ事で便秘解消にも繋がりがり、下剤を使用しなくなってきた。	竹内孝仁氏著書の『自立支援介護ブックレット』4冊を各ユニットで回し読みした。各ユニットで水分摂取を意識して取り組んだ事で便秘解消にも繋がりがり、下剤を使用しなくなってきた。	申し送りや日誌の変更。連絡ノートを活用により、「聞いている。聞いていない」は減ったが、日誌など見直しが必要となり、検討を行った。新しい日誌は次年度から使用する。医務では毎月1回の定期的な医務会の開催により情報の共有が出来るようにいった。

# 平成25年度事業報告書

報告日	平成26年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島 ショートステイサービス
責任者	横岩 大輔

収入 稼働率	項目	累計	
		稼働率	収入
	目標	90.0%	43,830千円
	実績	88.7%	43,763千円
	差異	-1.3%	-67千円
	達成率	98.6%	99.8%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	稼働率	90%	9月から施設全体の職員不足により、他ユニットの業務を手伝う事があった。そのため、新規利用者の受け入れの対応が難しく、FAXや電話対応の遅れることもあった。利用キャンセルで出た空室に対しては、迅速に対応が出来なかったことも目標値達成が出来なかった原因である。現在は長期利用者1名であるが、2名にすることで安定した稼働率を目指す。また、今年度は職員の退職が続いたために、目標数値以上の利用者を確保しても、満足していただけたサービスを提供出来ないと判断することがあった。職員の離職を防止、しっかりととした職員体制を整えて、十分なサービスを提供出来るように努める。
	顧客の確保	新規利用者のうち半数以上をリピーターにする。	新規利用者29名中リピーター16名。新規利用者の半数以上が2回目以降の利用があった。利用日数が少なく、毎月の定期的な利用の方は少なかった。ご利用者本人、ご家族の方の利用目的に沿ったサービスを提供し、継続した利用を今後もしていたようにする。定期的な空室状況を各事業所にFAXをして新規利用者の獲得に努める。
		電気の点けっぱなし、湯の出しっぱなしを無くす	電気に関しては、無駄に点けっぱなしにすることは減ってきている。入浴のお湯に関してはタイマー時計を使用することで、お湯の出し過ぎを防いでいる。来年度も継続して行いながら、節約するための良い方法があれば随時行っていく。
		経費削減	排泄パターンを見直す必要がある方には、職員同士で話し合いをしてパット類の使用の仕方を変更した。来年度も排泄の見直しが必要な方がいれば、その都度対応を話し合い見直しを行う。
			消耗品の無駄をなくす
サービスの強化	利用者個人にあった介護方法を統一して行う	毎月利用のある利用者(約40名程度)	ケアプランの更新を行うように予定していたが、予定人数の更新は出来なかった。定期的に見直しをするための、時間・話し合いの確保が出来ていない。職員で担当を決めてケアプランを作成する。内容についてはユニットの職員で話し合い、更新を行う。
	利用者が主体的に暮らせる機会を増やす	毎月1回以上	利用者個々には外出などを行っているが、実施できている方と出来ない方に偏りがある。職員による企画を立てての外出は、早めに予定を考えることが出来ず、下半期の寒い季節に実行することがあった。来年度は早めに計画を立て、外出は気候の良い時期に実施出来るようにする。利用者一人一人にとっての楽しみを提供できるように努める。
	介護サービスの質の向上	介護施設におけるマナーを知って、実践する	接遇マニュアルの内容を見ることが接客マナーを知ることは出来た。身に付くまでは時間が掛かるが、全員が正しい対応を出るようになる。来年度は定期的にチェック、話し合う場を設けてマナーについて周知徹底を行う。
	環境整備	清潔な環境で過ごせる	ユニット内の整理整頓をすることで無駄なものを減らすことが出来ている。使用しにくかったものも置き場所や別のものに変更することで使いやすくなっている。必要な掃除用品をまとめることで使用しやすくなった。来年度も見直しが必要であれば、変更していく。利用者される方が安心して、安全に過ごせる環境を職員で考えていく。



視点	重点取組課題	目標値	総括
サービス力の強化	介護事故削減	職員全員が常に服薬介助の声出し確認ができる  表皮剥離の予防ができる	服薬時の声だし確認は全員が出来ている。食前薬や食間薬・血糖値測定が必要な方がいる場合は、確認しやすいキッチンにホワイトボードを置き必要事項を書いている。以前よりも確認できる場所を増やすことで、事故削減になっている。施設で預かっている薬物が最新のものではない方もいるため、来年度は薬の変更の際の薬情持参を徹底してお願いをして、管理方法も見直していく。  内出血・表皮剥離予防のための技術向上を来年度も行う。
	感染症予防	一つ一つの業務を確実に行う  集団感染を起こさない	当日の業務の段取りを早出勤者が行い、当日の出勤者と話し合いながら分担任している。また、ご利用者の希望や体調の変化も確認しながら対応している。ユニット内で対応が難しい場合は、他部署に協力をお願いしている。  ショートステイでは集団感染は今年度も起きていない。職員は仕事前の手洗い、うがいの徹底を行い、日頃の体調管理に気を付ける。利用される方についても同様に、手洗い、うがいができるようにしていく。体調が悪くならない利用者の対応は、施設・ケアマネ・家族と連携を取り、迅速な対応をしていく。
	広報活動	タイムリーな更新	毎月の空室状況、ブログの更新をホームページに載せている。更新のペースが遅れることがあったため、更新状況の報告とチェックを行うようにする。見ていただいた方にショートステイの現状を理解していただけるブログの内容を意識して、来年度も継続して行っていく。
	業務の改善	業務の省力化  休憩時間の取得  業務の効率化と残業の管理	利用される方と一緒にできることは、家事等を含めて行っている。ただし、任せきりにはせずにコミュニケーションを取りながら行うことをユニットで再確認した。ユニット内の動線の見直しや町内会の動線の進め方など日頃の業務内で解決できそうなことは、来年度も話し合いをしなから改善していく。  休憩時間の取得は出来ているため来年度も継続していく。
人材・組織力の強化	伝達講習を開く	全員が事故、ヒヤリハットの区別をし て記録できる  部署内で情報が共有できる	事故、ヒヤリハットの区別が出来にくいものは他部署と相談することもある。記録に関しては全員が十分に行えてはいないため、他の記録も含めてスキルアップできるようにしていく。  ユニット内の情報が共有するためのシステムの基本型はできた。来年度は使用方法・更新方法等を検討して使用していく。使用した際に変更が必要であれば、見直して使いやすいものにしていく。
	高齢者体験研修の継続	伝達講習を開く	リーダー会議で伝達講習の方法について検討することはなかったため、実施していない。
	竹内理論の実践	高齢者体験研修の継続	高齢者体験研修を実施するには、介護職員の協力が不可欠であるが、介護職員の人手不足で十分な受け入れ対応ができないことから、非常勤職員向けの体験研修の実施は見送る形となった。  竹内孝仁氏著書の『自立支援介護ブックレット』4冊を各ユニット回し読みした。各ユニットで水分摂取を意識して取り組んだことと、便秘解消にも効果が、下剤を使用しなくなってきた方も数名いた。

# 平成25年度事業報告書

報告日	平成26年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島 デイサービス
責任者	西海 和彦

収入 稼働率	項目	累計 収入	
		稼働率	収入
	目標	75.0%	50,761千円
	実績	60.1%	41,559千円
	差異	-14.9%	-9,202千円
	達成率	80.1%	81.9%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	利用者数の増大	稼働率75%	今年度は、通常規模の30人定員で1日当たり平均22名と目標値を上げ取り組んでまいりました。例年と同様、居宅の営業を重点的に、居宅訪問日を月初の忙しい日を避け、比較的余裕を持ってケアマネと面談できる中旬頃に訪問を行ってきました。利用者の状況報告及び月間の空き状況等を伝えてきましたが、情報交換の中で、利用者ニーズに対応できない問題として、サービス時間帯、機能訓練におけるハード面等ありました。また、プライムデイサービスとしての大きなウリがなかったことでケアマネに対するインパクトが足らなかつたのかと思います。結局、新規利用者8名、追加利用者3名、利用中止者6名(内死亡3名)。利用中止者の中で、施設都合の発言で中止となった利用者がいたのが大きな反省点の一つでありました。
		毎月実施	各月に大きな季節行事等があれば、追加利用並びに振替利用して貰えるようにサービス上問題のない利用者に声を掛け、稼働率アップに繋げるように意識して取り組んできました。結果、行事のある週は、稼働率が上がりましたので、今後とも、利用者数の少ない曜日に中心に、積極的に声掛けしていきたいと思っております。
		毎月実施	毎年好評である、営業活動のアイテムの一つとして、ケアマネとの情報交換の中で、各利用者が、利用中の日常の様子(毎日の行事写真等)を写真に撮り報告することにより、理解を深めることができました。
		随時	今年度より、ホームページを利用し、PR活動の一つとして、ブログの更新をまいりました。季節行事等、閲覧する側にとってインパクトのある行事をアップしてきました。結果、反響もあつたので、今後も続けていかねばならないと思っております。よりインパクトのあるホームページの見直しは、今後の課題となりました。
サービス力の強化	加算体制の強化	随時	新規利用者及び既存の各利用者から個別機能訓練加算を取得していくため、要介護者対象に同意のもと個別機能訓練計画書を作成し、加算強化に努めてきました。
		毎月実施	毎月、レクリエーション会議を行い、翌月に行なう行事を検討していくことにより、毎日、違った行事を利用者に提供することができ、満足して貰うことができました。
		随時	新しいサービスの考案として考えてきましたが、現在、特定の利用者が日課のように使用しているリハビリ機器としてイージーウォークが好評でしたが、リハビリ系で何かないかと検討してきましたが、今後の課題となりました。
		毎月実施	利用者個々のニーズを取り入れた行事として、全体的に自宅から外出することができない利用者が多いので、買い物、外食は、毎月、選択レクとして固定の行事となりました。また、お花見や近場の秋の遠足等も好評でしたが、もう少し足を伸ばして遠足に行きたいと言う要望があり、来年度は検討していきたいと思っております。
		随時	毎月、固定レクとして、地域のボランティア(体操教室、音楽療法、川柳教室、書道等)に来て貰い内容の充実に向けてまいりました。また、季節行事(阿波踊り、太鼓の演奏、ジャズコンサート等)のボランティアも継続して貰いました。

視 点	重点取組課題	目 標 値	総 括
サービス力の強化	家族への伝達	毎月実施	毎年、レク会議で企画した行事を「プライムカレンダー」に載せ、毎月利用者や家族へ配布してきました。利用者は、何日の何曜日の行事だと一目でわかるのも楽しんでいました。
	通所介護計画書の作成	毎月実施	これまで各利用者がデイ利用中(体操、ゲーム、外出行事、季節行事等)の活動写真を撮り、家族にデイでの様子を分かち合ってもらうため行ってきました。結果、各利用者の日常の様子が見られ喜んで貰いました。
	労働環境の改善	随時	サービスプランの担当者として、相談員及び他の職員が担当し、サービスプランの作成方法を勉強しながら更新月に作成を行ってきました。
業務の改善	労働環境の改善	随時	職員の日常の事務業務は日常のサービス時間帯に支障がない範囲で行い、業務時間短縮に努め、定時に終わるように心掛けてきました。
	環境の美化	随時	デイ会議等の議題の中で、行事企画、介護統一、ヒヤリハット等は、定期的に協議することなどで、前もって事前準備を行い時間短縮に努めてきました。
	環境の美化	随時	デイルーム内を、利用者が気持ち良く過ごして貰うため備品の整理整頓、トイレチェック等、各職員が意識を持って美化していくように心掛けてきましたが、今後も継続して美化に努めていきます。
人材・組織力の強化	介護知識の向上	年内実施	施設外研修では、各職員に情報提供し、日程調整を行い参加して貰いました。研修内容は、デイ会議で、報告の場を持ち各職員に伝達講習を実施しました。また、内部研修も各職員がテーマを決めスキルアップの場として行ってきました。



## プライム江井ヶ島データ

平成25年度プライム江井島 特養要介護度別分布表(平成26年3月31日)

要介護度	男	女	計	構成比率
要介護1	0	2	2	2.9%
要介護2	0	6	6	8.8%
要介護3	5	11	16	23.5%
要介護4	3	18	21	30.9%
要介護5	4	19	23	33.8%
計	12	56	68	100%
平均要介護度	3.92	3.82	3.84	

平成25年度 プライム江井島 特養年齢分布表(平成26年3月31日)

年齢区分	男	女	計	構成比率
60歳未満	0	0	0	0%
60歳～64歳	0	1	1	1.5%
65歳～69歳	1	1	2	2.9%
70歳～74歳	3	2	5	7.4%
75歳～79歳	3	4	7	10.3%
80歳～84歳	1	7	8	11.8%
85歳～89歳	2	19	21	30.9%
90歳～94歳	2	14	16	23.5%
95歳～99歳	0	6	6	8.8%
100歳以上	0	2	2	2.9%
計	12	56	68	100%

最高年齢 100歳

最低年齢 63歳

平均年齢 85.3歳 (男性 78.7歳 女性 86.7歳)

平成25年度 プライム江井島 特養稼働状況表

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

	入所	退所	退所理由	入院日数	外泊日数	空床数	実日数	所定日数	稼働率
4月	2	4	死亡、長期入院	65	0	13	2,022	2,100	96.3%
5月	5	4	死亡、長期入院	57	0	45	2,068	2,170	95.3%
6月	2	1	長期入院	42	0	11	2,047	2,100	97.5%
7月	2	2	死亡	55	0	13	2,102	2,170	96.9%
8月	0	0		46	0	0	2,124	2,170	97.9%
9月	1	2	死亡	76	0	11	2,013	2,100	95.9%
10月	2	2	死亡、長期入院	31	14	20	2,105	2,170	97.0%
11月	1	0		0	0	0	2,100	2,100	100.0%
12月	0	1	死亡	23	0	2	2,145	2,170	98.8%
1月	2	1	死亡	19	2	11	2,138	2,170	98.5%
2月	0	0		0	0	0	1,960	1,960	100.0%
3月	0	2	長期入院	81	0	7	2,082	2,170	95.9%
計	17	19		495	16	133	24,906	25,550	97.5%

平均入所期間 3年8ヶ月 (男性 3年1ヶ月、 女性 3年10ヶ月)

平成25年度プライム江井ヶ島ショートステイサービス稼働状況表

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用者数(人)	295	267	261	277	274	274	
1日当り利用者数(人)	9.8	8.6	8.7	8.9	8.8	9.1	
稼働率(%)	98.3	86.1	87.0	89.4	88.4	91.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数(人)	255	266	278	284	241	264	3,236
1日当り利用者数(人)	8.2	8.9	9.0	9.2	8.6	8.5	8.9
稼働率(%)	82.3	88.7	89.7	91.6	86.1	85.2	88.7

平成25年度プライム江井ヶ島デイサービス稼働状況表

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用者数(人)	435	444	344	404	336	371	
1日当り利用者数(人)	19.8	19.3	17.2	17.6	16.8	17.7	
稼働率(%)	65.9	64.3	57.3	58.6	56.0	58.9	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数(人)	399	398	334	342	371	398	4,576
1日当り利用者数(人)	17.3	19.0	16.7	17.1	18.6	19.0	18.0
稼働率(%)	57.8	63.2	55.7	57.0	61.8	63.2	60.1